



杉並区勢概要

令和3年版（2021）

杉並区勢概要

もくじ

令和3年 杉並区的主要出来事	1
交通安全杉並区宣言、杉並区平和都市宣言、杉並区男女共同参画都市宣言、杉並区ゼロカーボンシティ宣言	3
区の紋章、コミュニケーションマーク、区の木、なみすけ	4
杉並区のプロフィール（区名の由来）	5
自然（位置・面積、地形、河川、風致地区等）	6
世帯と人口	8
交通網	10
産業構造	11
区民所得と税負担	14
杉並区の財政状況	15
歳時記	18
歴史	20
杉並区の昭和史	23
杉並区の平成史	25
杉並区の令和史	28
交流自治体	29
名誉区民	32
自治基本条例	36
杉並区基本構想	38
杉並区総合計画等	40
杉並区歌・杉並音頭	41

令和3年 杉並区的主要出来事

1月 ●新たな多世代型施設「コミュニティふらっと」の開設

子どもから高齢者までの多世代が集い交流する新たな地域コミュニティ施設「コミュニティふらっと」(阿佐谷、東原、馬橋)を開設しました。また、4月には、永福図書館と複合化した「コミュニティふらっと永福」を開設し、複合施設のメリットを生かした運営を進めています。



▲コミュニティふらっと永福

●新型コロナウイルス感染症病床確保のための転院支援事業の開始

コロナ病床の入院患者が治療後、基礎疾患等で引き続き入院が必要な場合、転院受け入れ病院へ必要な財政的支援を行うことで転院を促進し、コロナ病床の確保を図りました。

2月 ●児童・生徒1人1台専用タブレット端末の配備

一人一人の能力や特性に応じた学びと協働的な学びに加え、非常時等のオンライン学習にも対応できる環境を整備しました。

4月 ●4年連続で保育の待機児童ゼロの実現

4月入所における保育の待機児童ゼロを実現しました。

●農福連携農園「すぎのこ農園」の全面開園

23区初となる農福連携農園(愛称「すぎのこ農園」)は、江戸時代中期の農家住居の部材を活用した管理棟が完成し、4月に全面開園しました。障害者等の就労支援や福祉施設への農産物提供などに取り組むと共に、今後は区民・地域と連携したイベント事業も進めていきます。



●新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の開始

4月の高齢者施設での接種を皮切りに、桃井原っぱ公園(仮設会場)をはじめ集団接種会場6カ所と区内医療機関で接種を開始しました。その後も集団接種会場の拡大(最大11カ所)や夜間接種、200を超える診療所での接種により機会の拡充を図りました。

5月 ●対話型AIロボットの設置

来庁者への庁舎案内業務を行う対話型AIロボットを、区役所ロビーに設置しました。



7月 ●2021杉並区プレミアム付商品券の発行

コロナ禍における区民の生活を応援するとともに、区内商店街を幅広く支援するため、30%のプレミアム付きの商品券(紙商品券・デジタル商品券)を、約10億円分発行しました。

●東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受け入れ等

高円寺体育館においてウズベキスタンボクシング選手団、永福体育館においてイタリアカヌー(スプリント)選手団が事前キャンプを実施しました。江戸手妻や阿波おどり演舞など杉並ならではの交流を行いました。



8月 ●IoT街路灯システムによる河川ライブカメラの配信開始

水害への迅速な対応や避難行動を起こす際の判断に活用できるよう、23区では初の試みとなるYouTubeでの河川映像のリアルタイム配信を開始しました。

9月 ●自宅療養者支援ステーションの開設

新型コロナウイルスに感染した自宅療養者の体調管理や必要な物資の配達等を円滑に行うため、BCP(事業継続計画)を発動して大幅に応援職員を増やし、3カ所の保健センター内に「自宅療養者支援ステーション」を設置しました。

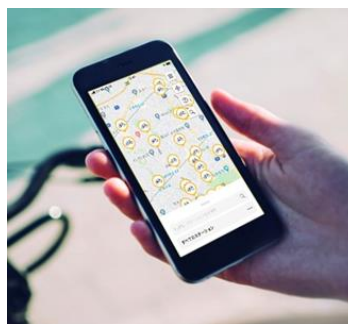
10月 ●新たな杉並区基本構想の策定

区が目指すおおむね10年後のまちの姿を「みどり豊かな 住まいのみやこ」とした新たな基本構想を、区議会での議決を経て策定しました。

みどり豊かな
住まいのみやこ

12月 ●シェアサイクル実証実験の開始

公共交通の機能補完や観光振興等に資するシェアサイクルの有効性および課題を検証するため、民間事業者と協定を締結し、実証実験を開始しました。



●特別養護老人ホーム「10年1000床整備計画」の達成

天沼3丁目に区内最大級の特別養護老人ホーム「フェニックス杉並」(定員180名)が開設されたことにより、「平成24年度からの10年間で1000床増床」の整備目標を達成しました。

交通安全杉並区宣言

近時、車両運行の急激な増加にともない、区内における交通事情は悪化の一途をたどり、事故は日とともに激増の傾向にあることは、まことに憂慮に堪えないところである。杉並区は人命を尊重し、区民の生命財産をまもり、区内における交通事故の絶滅を期するため、これが施策を推進することを決意し、ここに交通安全都市を宣言する。

(昭和40年3月31日制定)



交通安全都市宣言塔

杉並区平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。いま、私たちの手にある平和ゆえの幸せを永遠に希求し、次の世代に伝えよう。ここに杉並区は、核兵器のなくなることを願い、平和都市を宣言する。

(昭和63年3月30日制定)

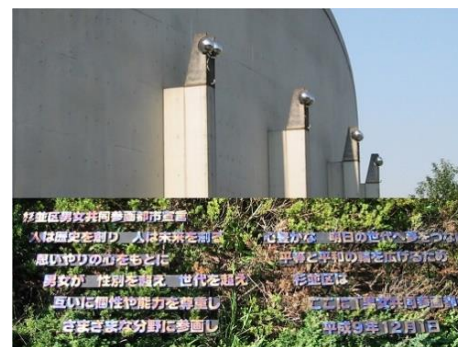


ジーンズ (平和都市宣言記念像)
平成2年 佐藤 忠良 氏 作

杉並区男女共同参画都市宣言

人は歴史を創り 人は未来を創る
思いやりの心をもとに 男女が 性別を超え
世代を超え 互いに個性や能力を尊重し
さまざまな分野に参画し
心豊かな 明日の世代へ夢をつなげ
平等と平和の輪を広げるため
杉並区は ここに「男女共同参画都市」を宣言します

(平成9年12月1日制定)



男女共同参画都市宣言モニュメント
六角 鬼丈 氏 作

杉並区ゼロカーボンシティ宣言 ~杉並区は2050年ゼロカーボンシティを目指します~

今、世界では、地球温暖化の影響により、干ばつや豪雨、台風などが強大化し、大規模な自然災害が発生しています。また、自然生態系の変化や猛暑による熱中症被害など、温暖化の脅威は決して私達から遠い世界の話ではなく、一人ひとりの暮らしや命にかかわる身近な問題となっています。

杉並区は、これまでも、再生可能エネルギーの活用や省エネ対策の推進を図るなど、地球温暖化防止に資する取組を進めてきました。また、自然災害等に対応するための防災、減災対策やみどりの保全など、区民の暮らしを守る取組を多面的に展開してきました。

一方で、温暖化は急速に進行しており、今後も自然災害の更なる頻発化、激甚化が危惧されています。こうした事態は、もはや「気候変動」ではなく、「気候危機」とも言える事態になっており、これまで以上の取組が求められる喫緊の課題となっています。

そこで、杉並区は、令和32(2050)年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「2050年ゼロカーボンシティ」を目指すことをここに表明し、区民や事業者の皆様とともに脱炭素社会の実現に向けた取組を強力に進めます。

温暖化の進行を食い止め、良質な住宅都市として発展してきた杉並区を将来世代に引き継いでいくため、全力で取り組んでいきます。

(令和3年11月1日表明)



区の紋章

この紋章は「杉」を幾何学的に図案化したもので、区制施行20周年を記念し、昭和27年10月1日に制定しました。

【デザイン＝ 恩地孝四郎】



コミュニケーションマーク

コミュニケーションマークは、二十一世紀を展望しつつ、新しい時代にふさわしい魅力あるまちを創造していく姿勢を明らかにするために、平成4年3月11日に制定しました。

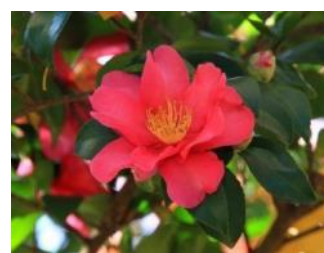
杉



アケボノスギ



サザンカ



区の木

区内の緑を「守り、ふやし、育てる」ことを目標に「みどりの条例」を制定（昭和48年11月1日施行）し、区の木を『杉』『アケボノスギ』『サザンカ』の3種に決めました。

『杉』は、江戸時代の初め、領主の岡部氏が杉並木を青梅街道沿いに植え、村の境界を明らかにしたことから地名の由来といわれています。区の木の設定の際に行った区民アンケートでも多くの支持がありました。ただし、杉は多湿で清浄な空気を好むことから、区内での植栽には向かず、シンボリックな位置付けとしました。

杉の仲間として選ばれたのが『アケボノスギ』です。アケボノスギは、同じスギ科でも丈夫で育てやすく大きくなるので、一般家庭への植栽ではなく、主に公園や公共施設に植栽されています。

『サザンカ』は、花の少ない冬の時期に開花する品種です。また、区内でも栽培が容易で園芸種も数多いことから、公園や公共施設のほかにも家庭の庭に植栽するものとして選定しました。サザンカは、別名を「ひめつばき」といい、昭和57年に制定した「杉並区歌」の中でも、“杉の木立にひめつばき”と歌われています。

なみすけ



平成18年に公募で選ばれた、杉並区公式アニメキャラクターです。

「杉並の魅力」を内外に発信しています。

【大きさ】 子犬くらい（見る人によっては大きさがちがう）

【性格】 好奇心おうせい、ほがらか

【好きなもの】 おいしい空気、りんご

【趣味】 さんぽ、人間かんさつ

【特技】 背中のはれで空気をきれいにすること

【なみすけInstagram URL】

https://www.instagram.com/suginami_namisuke

杉並区のプロフィール



杉並区役所（青梅街道側）

区名の由来

江戸時代の初期、成宗と田端両村の領主であった岡部氏が領地の境界を示すため、青梅街道に杉並木を植えたことに始まっています。この杉並木は、江戸時代を通じて相当有名であったらしく、江戸時代末期の地図には村名と並び「杉並」の名が青梅街道に明示されていました。

その後、明治22年、既に杉並木はなくなっていました。高円寺・馬橋・阿佐ヶ谷・天沼・田端・成宗の6つの村が合併した際、新しい村名として「杉並村」が採用され、公称されることになりました（この合併前には、阿佐ヶ谷や成宗の小名としての杉並---現在の区役所付近---および東杉並、西杉並---旧成宗一丁目街道筋---の名称もありました）。

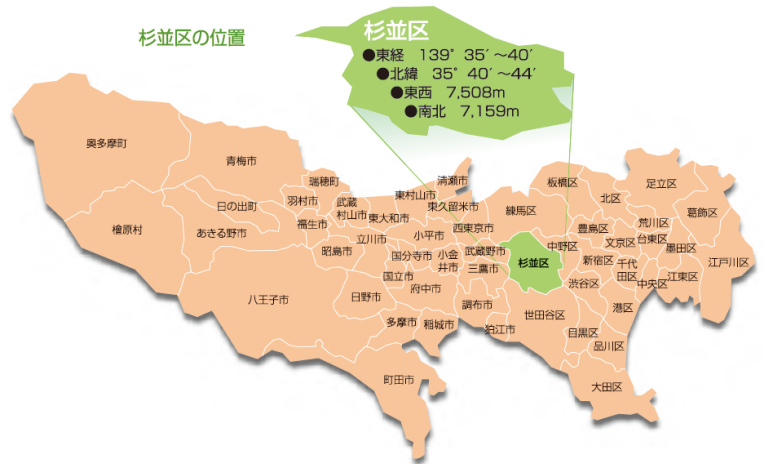
やがて「村」から「町」になった杉並は、昭和7年10月、和田堀町・井荻町・高井戸町と合併しましたが、4町の中では最も発展が著しかったことにより、その名が残され“杉並区”が誕生しました。

自然

位置・面積

武蔵野台地の上、東京 23 区の西端に位置し、一般に「城西地区」と呼ばれる区域に属しています。

おおむね方形で、東は中野区・渋谷区、西は三鷹市・武蔵野市、南は世田谷区、北は練馬区に接し、その面積は 34.06 km²と 23 区中 8 番目の広さを持っています。



地形・地質

区内はほぼ平坦な台地ですが、西から東へ向かって緩やかに傾斜しており、標高の最高地点は善福寺三丁目 25・34 番付近で概ね 54.3m、最低地点は和田一丁目 17・18 番付近で概ね 28.6m です。

杉並区が立地する武蔵野台地の表面は、「関東ローム層」の一部を構成する立川ローム層と武蔵野ローム層から成る褐色の火山灰土に厚く覆われています。

ローム層の下には、古多摩川が運んできた武蔵野礫層が堆積し、礫層からの湧水が善福寺川などの流れを作りました。

気候

2021 年の月別平均気温は、8 月の 27.7℃が最も高く、1 月の 4.7℃が最も低くなっています。

一方、2021 年の月別降水量は、8 月の 280.5mm が最も多く、1 月の 40.0mm が最も少なくなっています。

※気象庁練馬観測所（練馬区石神井台）のデータを使用

河川

区内を東西に流れる神田川・善福寺川・妙正寺川は荒川水系の一級河川であり、かつては農業用水や飲料水にも利用されていました。しかし、農地の減少や上水道の普及が進んだ今日では、水辺のレクリエーションゾーンとしての活用が期待されています。



風致地区

風致地区は、都市の自然的景観及びこれと一体となった史跡、名勝等を含む区域の環境を保全し、良好な都市環境の維持を目的として指定する都市計画法第8条第1項による地域地区のひとつです。

◆善福寺風致地区 [昭和5年10月指定]

善福寺池と井草八幡宮周辺の緑地帯地区で、都立善福寺公園などを含み、指定面積は29.2haとなっています。

井の頭池（三鷹市）や三宝寺池（練馬区）とともに“武蔵野三名池”といわれ、その豊富な湧水を誇った善福寺池は、近年、湧水量こそ減少しましたが、樹木の生い茂った周辺地域には武蔵野の面影がまだまだ残っています。

また、井草八幡宮の境内や善福寺池の周辺からは、旧石器時代の遺跡や縄文時代の遺跡が発見され、特に井草遺跡から出土した早期縄文土器は“井草式”土器の名称で広く知られています。



◆和田堀風致地区 [昭和8年1月指定]

大宮八幡宮を中心とした善福寺川中流域地区で、2つの都立公園（区内では最も広い和田堀公園とそれに次ぐ善福寺川緑地）などを含み、151.3haと、広大な地域が指定されています。

この地区は、今なお武蔵野の面影を各所にとどめていて、自然と親しむ格好の場となっています。

また、大宮八幡宮付近は文化財が多いことでも知られ、大宮遺跡や松ノ木遺跡のほか、都の天然記念物に指定されマツやスギの見事な社叢がみられたとされる「大宮八幡社叢」があります。



世帯と人口

《動向・推移》

年代別人口

◆人口の推移

東京23区の人口総数は、昭和63年にそれまでの増加傾向から減少に転じましたが、平成9年以降年々増加しています。杉並区においても、平成9年より増加傾向にありましたが、令和3年には減少に転じています。

◆昼間人口

平成27年国勢調査での杉並区の昼間人口は479,975人、常住人口(夜間人口)は563,997人となっています。1日の流動人口は、流入が93,596人(通勤者70,106人、通学者23,490人)、流出が177,618人(通勤者156,403人、通学者21,215人)となっており、住宅地としての地域的特性が表れています。

資料：総務省「国勢調査報告」、東京都総務局統計部人口統計課「東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)」

◆人口密度

中央線沿線や環七沿い、特に高円寺北・南、梅里、方南、阿佐谷南地域は人口密度が高く、善福寺、成田西、大宮地域では低くなっています。

※住民基本台帳法の改正により、平成24年7月9日以降は住民基本台帳登録者に外国人住民も含まれています。

※住民基本台帳登録者(令和2年4月1日現在)

年齢	男	女	計
0～4歳	11,048	10,765	21,813
5～9歳	10,323	9,728	20,051
10～14歳	9,514	9,057	18,571
15～19歳	9,909	9,619	19,528
20～24歳	17,031	19,105	36,136
25～29歳	23,026	24,708	47,734
30～34歳	22,869	23,232	46,101
35～39歳	23,239	23,069	46,308
40～44歳	23,137	23,011	46,148
45～49歳	23,162	24,583	47,745
50～54歳	21,123	21,410	42,533
55～59歳	17,776	17,646	35,422
60～64歳	14,041	14,275	28,316
65～69歳	12,764	13,683	26,447
70～74歳	13,547	15,542	29,089
75～79歳	10,025	13,291	23,316
80～84歳	6,827	10,895	17,722
85～89歳	4,616	8,909	13,525
90～94歳	1,941	5,119	7,060
95～99歳	393	1,740	2,133
100歳以上	49	346	395
合計	276,360	299,733	576,093

《住民基本台帳に基づく人口等》

人口動態

◆住民基本台帳

転入や転出など、住民の異動に関する届出に基づいて居住関係の正確な記録を整備するため、「住民基本台帳制度」があります。

住民基本台帳に区民の住所、氏名、生年月日、性別のほか、世帯主と続柄および本籍地や筆頭者名などを記録しておき、これを住民票や転出証明書の発行、選挙人名簿の登録、国民健康保険と国民年金の被保険者資格の確認などの各種行政事務の処理に役立てる制度です。

※住民基本台帳登録者

年度	増減数	自然増加数			社会増加数		
		出生	死亡	増減	転入等	転出等	増減
27	5,899	4,828	4,459	369	70,429	64,899	5,530
28	6,168	4,697	4,419	278	68,847	62,957	5,890
29	4,482	4,600	4,490	110	68,439	64,067	4,372
30	5,349	4,578	4,468	110	68,910	63,671	5,239
元	4,581	4,540	4,762	-222	68,834	64,031	4,803

町名別人口（令和2年4月1日現在）※住民基本台帳登録者

町名	世帯数	人口			町名	世帯数	人口		
		男	女	総数			男	女	総数
方南	8,230	6,608	6,702	13,310	荻窪	14,154	12,065	13,469	25,534
和泉	16,863	14,130	14,633	28,763	南荻窪	7,410	6,846	7,487	14,333
下高井戸	11,706	9,514	10,272	19,786	上荻	7,978	6,334	6,953	13,287
永福	8,728	7,383	8,298	15,681	西荻南	7,013	5,250	6,545	11,795
浜田山	8,707	7,789	9,139	16,928	西荻北	10,484	8,114	9,581	17,695
和田	11,759	9,465	10,214	19,679	今川	4,606	4,730	4,927	9,657
堀ノ内	11,449	9,675	10,188	19,863	清水	4,680	4,197	4,677	8,874
松ノ木	4,187	3,695	3,765	7,460	桃井	6,129	5,638	6,235	11,873
大宮	2,120	1,836	1,935	3,771	井草	9,224	8,193	8,791	16,984
梅里	5,506	3,948	4,412	8,360	下井草	10,047	8,959	9,477	18,436
高円寺南	21,690	16,126	16,021	32,147	上井草	7,926	7,677	8,104	15,781
高円寺北	11,006	8,321	7,948	16,269	善福寺	5,883	5,789	6,469	12,258
阿佐谷南	12,434	9,335	10,092	19,427	松庵	5,895	4,918	5,768	10,686
阿佐谷北	15,116	12,174	12,960	25,134	宮前	9,530	9,217	9,950	19,167
天沼	9,721	7,814	7,913	15,727	久我山	10,824	9,247	10,815	20,062
本天沼	6,233	5,837	5,898	11,735	高井戸東	10,289	9,335	10,646	19,981
成田西	4,088	4,353	4,621	8,974	高井戸西	6,445	5,045	6,411	11,456
成田東	12,513	11,240	12,131	23,371	上高井戸	6,907	5,563	6,286	11,849
合計	327,480	276,360	299,733	576,093					

住民基本台帳登録者（各年4月1日現在）

	総人口	日本人住民			外国人住民		
		男	女	小計	男	女	小計
昭和55年	523,069	255,666	263,296	518,962	2,236	1,871	4,107
昭和60年	524,057	256,292	262,853	519,145	2,584	2,328	4,912
平成2年	521,570	251,827	260,746	512,573	4,961	4,036	8,997
平成7年	512,328	243,226	257,648	500,874	6,174	5,280	11,454
平成12年	513,180	243,484	259,317	502,801	5,257	5,122	10,379
平成17年	524,819	248,602	265,375	513,977	5,367	5,475	10,842
平成22年	539,211	254,253	273,520	527,773	5,465	5,973	11,438
平成28年	555,897	260,356	282,382	542,738	6,584	6,575	13,159
平成29年	562,065	262,546	284,731	547,277	7,350	7,438	14,788
平成30年	566,551	263,587	286,558	550,145	8,178	8,228	16,406
令和元年	571,512	265,252	288,415	553,667	8,786	9,059	17,845
令和2年	576,093	267,384	290,659	558,043	8,976	9,074	18,050

※外国人住民は平成24年6月までは外国人登録法、平成24年7月からは住民基本台帳法に基づく集計です。

◆戸籍

戸籍簿は、日本国民の出生、死亡、婚姻、親子関係など身分関係を登録して公証するものであり、法定受託事務として区長がその事務を管掌しています。

法律上の権利義務はこの身分関係により異なってくるため、戸籍には、届出に基づく出生から死亡までの事項を、正確な年代順に記録しておく必要があります。

なお、住民基本台帳上の記録と結び付けるため、住所等を記録した附票を作成して、戸籍の全部・個人事項証明書と同様、附票の写しを交付しています。

戸籍数・本籍人口の推移（各年4月1日現在）

	戸籍数	本籍人口
昭和55年	150,534	500,368
昭和60年	161,421	520,426
平成2年	172,307	535,939
平成7年	182,975	543,391
平成12年	194,899	546,253
平成17年	204,097	550,001
平成22年	216,669	525,167
平成28年	224,349	532,623
平成29年	225,303	533,572
平成30年	226,329	534,647
令和元年	227,026	535,214
令和2年	227,670	535,126

※昭和60年以前は3月31日現在の数値

交通網

道路事情

区内を通る幹線道路としては、国道20号、中央自動車道の国道2路線と、首都高速4号線や青梅街道、五日市街道などの都道16路線があります。

これらと区道（2，953路線）を合わせた公道部分の道路率は14.16%（令和3年4月1日現在）で、東京都における区部の道路率16.60%と比較しても、決して道路事情に恵まれているとはいえない現状です。特に、南北を縦断する道路整備が遅れていることや、一部の区画整理地区を除くと不規則に連なった幅の狭い道路が多いことなど、多くの課題が残されています。

公共交通

交通の便としての自動車に関しては、バス路線が発達しています。

鉄道の各駅間や駅と住宅地域などを結んでいる区内のバス路線は、都営バスと民間バス（5社）を合わせて約60路線あり、その半数近くは荻窪駅を起点としています。なお、平成12年11月から阿佐ヶ谷駅⇄浜田山駅を結ぶ南北バス「すぎ丸」けやき路線、また、平成16年11月から浜田山駅⇄下高井戸駅を結ぶ「すぎ丸」さくら路線、そして平成20年12月から西荻窪駅⇄久我山駅を結ぶ「すぎ丸」かえで路線がコミュニティバスとして運行しています。

鉄道に関しては、人口流動に関する重要な位置を占めています。

区内の鉄道は、ほぼ東西に走り、北から西武新宿線、JR中央線、東京メトロ丸ノ内線、京王井の頭線、京王線の5路線に19の駅があり、区民の大切な“足”となっています。



環状七号線



JR 中央線



コミュニティバス「すぎ丸」



甲州街道

産業構造

産業の分類・形態

昭和初期までの杉並区は都市近郊農村の様相を濃くしていましたが、都市人口の増加に伴う市街地の拡大によって農地面積は次第に減少し、今日では商業やサービス業などの第三次産業従事者が非常に高い割合を占めています。

産業別事業所数・従業者数（平成28年「経済センサス活動調査」より）

	区分	事業所数 (所)	従業者数 (人)
第一次産業	農林漁業	11	52
	小計	11	52
第二次産業	鉱業、採石業、砂利採取業	0	0
	建設業	1,171	9,815
	製造業	463	3,644
	小計	1,634	13,459
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	6	336
	情報通信業	494	6,775
	運輸業、郵便業	289	8,782
	卸売業、小売業	4,356	33,124
	金融業、保険業	194	4,388
	不動産業、物品賃貸業	2,604	8,050
	学術研究、専門・技術サービス業	1,057	4,701
	宿泊業、飲食サービス業	3,104	18,977
	生活関連サービス業、娯楽業	1,757	8,366
	教育、学習支援業	772	9,722
	医療、福祉	2,057	26,667
	複合サービス事業	54	799
	サービス業（他に分類されないもの）	857	13,051
	小計	17,601	143,738
全産業合計		19,246	157,249

工業

業種別事業所数・従業者数（従業者4人以上の事業所）

（令和2年6月1日現在「工業統計調査」より）

業種	事業所数	従業者数	業種	事業所数	従業者数
食料品製造業	9	182	金属製品製造業	2	11
繊維工業	7	94	はん用機械器具製造業	1	6
木材・木製品製造業	1	4	生産用機械器具製造業	3	32
家具・装備品製造業	5	33	業務用機械器具製造業	8	78
パルプ・紙・紙加工品製造業	2	17	電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	11
印刷・同関連業	17	161	電気機械器具製造業	8	124
プラスチック製品製造業	2	29	情報通信機械器具製造業	2	44
窯業・土石製品製造業	1	5	輸送用機械器具製造業	3	28
鉄鋼業	1	11	その他の製造業	8	92
			合計	81	962

商業

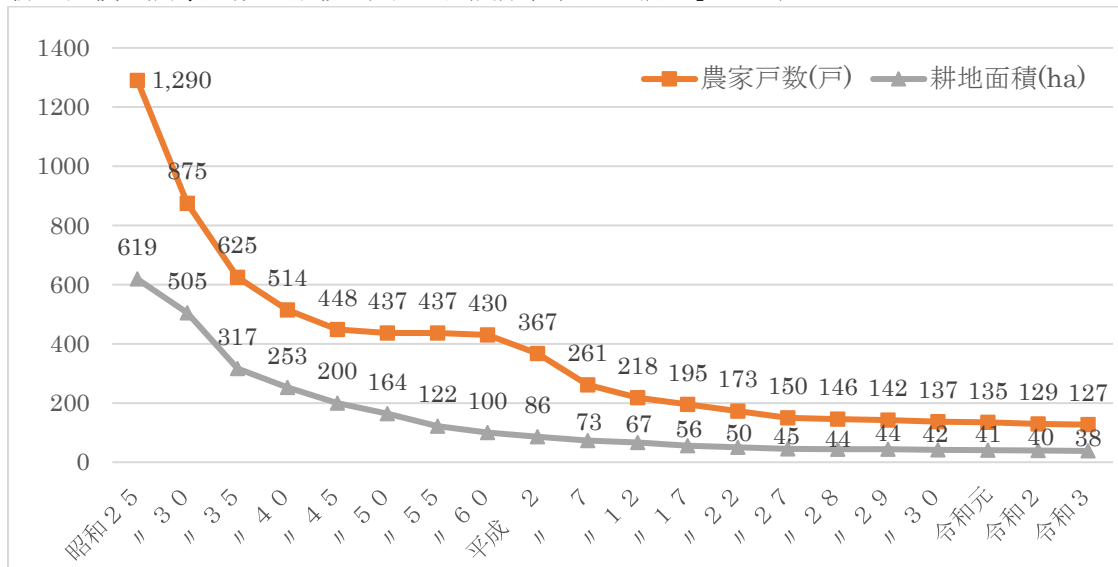
業種別事業所数・従業者数（平成28年「経済センサス活動調査」より）

業種	事業所数	従業者数
卸売業	930	8,569
各種商品小売業	7	433
織物・衣服・身の回り品小売業	528	2,102
飲食料品小売業	1,091	12,152
機械器具小売業	340	2,210
その他の小売業	1,323	6,582
無店舗小売業	131	1,022
総数	4,350	33,070

※管理，補助的経済活動のみを行う事業所は含まれないため、
産業別事業所数・従業者数（卸売業，小売業）とは一致しない。

農業

耕地面積・農家戸数の推移（「杉並区農業経営実態調査」より）



農耕地面積（令和3年4月1日現在「杉並区農業経営実態調査」より）

	ha
生産緑地	30.72
その他	7.89
計	38.61

区民所得と税負担

安全で豊かな潤いのある生活基盤を維持していく上で、税金は欠かすことのできないものです。

国や地方公共団体の公共施設・公共サービスの財源となる税金は、その種類により、国及び杉並区や東京都などの地方公共団体が賦課・徴収し、国民全体の暮らしに役立てられています。

区民の所得

令和3年度住民税の課税状況等の調査によると、納税義務者1人当たりの所得額－令和2年中の所得額－は478万1,469円で、23区全体の平均所得額496万4,997円を下回っています。

特別区税

特別区税には、特別区民税、軽自動車税、特別区たばこ税、鉱産税、入湯税があります。(現在、鉱産税の課税実績はありません。)

令和2年度特別区税調定収入状況（決算数値）

区分	調定額	収入済額	収入歩合	調定額比率
特別区民税	66,581,169,863円	64,515,370,541円	96.90%	95.66%
軽自動車税	223,367,379円	199,839,118円	89.47%	0.32%
特別区たばこ税	2,785,189,824円	2,785,189,824円	100.00%	4.00%
入湯税	10,796,100円	10,796,100円	100.00%	0.02%
合計	69,600,523,166円	67,511,195,583円	97.00%	100.00%

◆適正な賦課

「わたしたちの区税」の発行や広報等を通じて、税制のわかりやすい説明に努めています。また、所得等の把握を適切に行い、正確な税額決定と通知により、税への信頼を高め、公平で公正な税制を推進しています。

◆納税の推進

納期限内に納税できない場合は納税相談を行い、他方で、担税力がありながら納付に応じない滞納者には差押え等の滞納処分の強化に取り組んでいます。

◆ふるさと納税への対応

ふるさと納税による特別区民税の税額控除額が、区税収入に影響を与えることから、ふるさと納税制度に対する区の実情と現状や課題等について、幅広く情報を発信しました。また、新型コロナウイルス感染症対策について引き続き寄附を募り、地域全体で区内の医療機関を支えるとともに、健全な寄附文化を醸成しました。さらには都市と地方との共存共栄など、ふるさと納税制度の本来の趣旨に沿った取組を進めていきます。

税負担

住民税の個人負担額（各年度決算数値）

(単位：円)

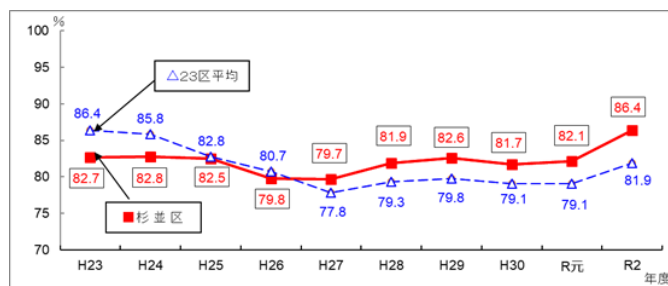
年 度	特別区民税		都民税		計（区民税・都民税）	
	納税義務者 1人当たり	区民 1人当たり	納税義務者 1人当たり	区民 1人当たり	納税義務者 1人当たり	区民 1人当たり
30 元	189,765	111,449	125,607	73,769	315,372	185,218
2	188,487	111,665	124,761	73,911	313,248	185,576
	187,742	112,032	124,221	74,128	311,963	186,160

杉並区の財政状況

経常収支比率の推移

経常収支比率は、人件費、扶助費、公債費といった容易に縮減することが困難な経常的経費に、区民税等の経常一般財源がどの程度充当されているかを表すものです。

毎会計年度一定程度の収入が見込まれる経常一般財源に占める経常的経費の割合をみることにより、財政構造の弾力性を判断する指標となります。

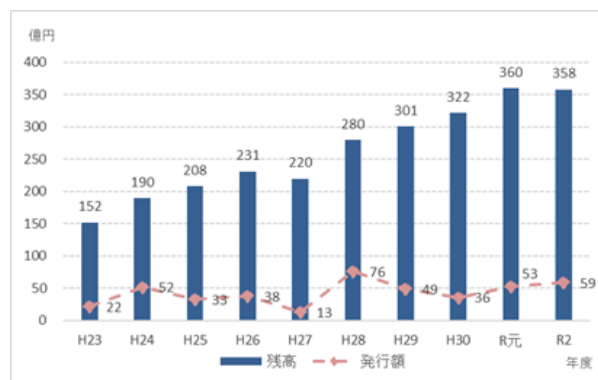


※普通会計決算による。

区債残高の推移

令和3年度に財政運営のルールを見直し、「財政健全化と持続可能な財政運営を確保するための基本的な考え方」を示しました。

この財政運営のルール（令和4年度以降は「基本的な考え方」）に基づき、区債は、原則として赤字区債は発行せず、建設債についても、財政状況を踏まえつつ、必要性を十分検討して発行します。



※普通会計決算による。

性質別歳出の内訳の推移

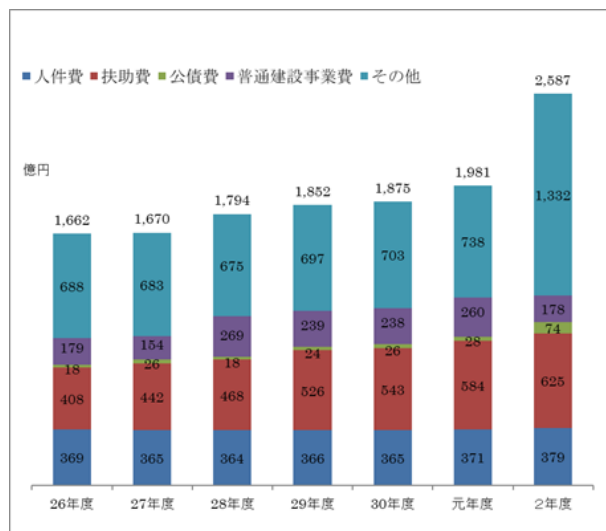
人件費・・・給料などの経費。

扶助費・・・生活保護法、児童福祉法等に基づき、地方公共団体から現金または物品で被扶助者に直接支給される経費。

公債費・・・地方債の元金及び利子の償還経費。

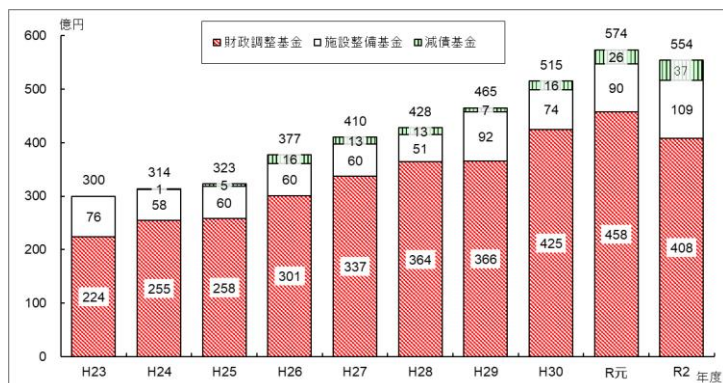
普通建設事業費・・・施設、道路等の建設事業で、事業に伴う人件費や事務費も含む。

その他・・・物件費、維持補修費、補助費等、貸付金、繰出金など。



※普通会計決算による。

主な基金残高の推移



※普通会計とは、全国の自治体の財政状況を比較するために、総務省が定める基準を用いて自治体の会計を再構成した、統計上、観念上の会計です。予算書や決算書の数値とは若干異なります。

令和3年度当初予算規模

※数値については原則として表示単位未満を四捨五入しているため、合計・構成比が合わない場合があります。

当初予算規模

会計別	予算規模	対前年度比
一般会計	1990億 2500万 0000円	102.7%
国民健康保険事業会計	522億 3685万 4000円	99.2%
介護保険事業会計	438億 6546万 3000円	93.4%
後期高齢者医療事業会計	140億 5189万 0000円	99.2%
合計	3091億 7920万 7000円	99.1%

一般会計当初予算の内訳

歳入

項目	予算規模	構成比
特別区民税	602億円	30.2%
特別区たばこ税	29億円	1.5%
軽自動車税	2億円	0.1%
特別区財政交付金	406億円	20.4%
国・都支出金	518億円	26.0%
地方消費税交付金	113億円	5.7%
特別区債	48億円	2.4%
その他	272億円	13.7%
総額	1990億円	

特別区税 ……特別区民税、特別区たばこ税、軽自動車税、(入湯税)

特別区財政交付金 ……都と区、区相互の財政を調整するための交付金

国・都支出金 ……国や都の負担金、補助金、委託金

特別区債 ……建設事業等のため国などから長期資金として借入れるお金

歳出(目的別)

項目	内容	予算規模	構成比
議会費	区議会の運営	8億円	0.4%
総務費	広報、庁舎管理、防災対策など	63億円	3.1%
生活経済費	区民施設の管理、戸籍事務、産業の振興、スポーツ振興など	84億円	4.2%
保健福祉費	高齢者・障害者・児童の福祉の充実、保健衛生など	1026億円	51.6%
都市整備費	まちづくり、公園や道路の維持・整備	140億円	7.1%
環境清掃費	リサイクルなどの環境対策、ごみの収集・運搬など	68億円	3.4%
教育費	小中学校などの学校教育、図書館などの生涯学習	167億円	8.4%
職員費	職員の給与など	388億円	19.5%
公債費	区債の償還など	43億円	2.2%
その他	予備費、諸支出金など	3億円	0.2%
総額		1990億円	

歳出(性質別)

項目	予算規模	構成比
既定事業	1398億円	70.2%
職員人件費	388億円	19.5%
投資事業	154億円	7.7%
新規・臨時事業	7億円	0.4%
公債費	43億円	2.2%
総額	1990億円	

既定事業 ……毎年度経常的に行われる仕事の経費

職員人件費 ……職員の給料などの経費

投資事業 ……土地購入や施設建設など資産として残る経費

新規・臨時事業 ……新しい仕事や一時的に行われる仕事の経費

公債費 ……国などから借りたお金を返すための経費

各特別会計当初予算の内訳

国民健康保険事業会計

予算総額	522億円
------	-------

歳入

項目	予算規模	構成比
都支出金	322億円	61.7%
国民健康保険料	147億円	28.1%
繰入金	50億円	9.6%
その他	3億円	0.6%

歳出

項目	予算規模	構成比
保険給付費	318億円	60.9%
国民健康保険事業費納付金	183億円	35.1%
総務費	11億円	2.1%
その他	10億円	1.9%

介護保険事業会計

予算総額	439 億円
------	--------

歳入

国・都支出金	162 億円	36.9%
支払基金交付金	113 億円	25.7%
介護保険料	92 億円	21.0%
その他	72 億円	16.4%

歳出

保険給付費	408 億円	92.9%
その他	31 億円	7.1%

後期高齢者医療事業会計

予算総額	141 億円
------	--------

歳入

後期高齢者医療保険料	79 億円	56.0%
繰入金	58 億円	41.2%
その他	4 億円	2.8%

歳出

広域連合納付金	131 億円	92.9%
その他	10 億円	7.1%

歳時記

睦月（1月）

馬橋どんど焼き：杉並第六小学校（阿佐谷南1-24-21）
問い合わせ 高円寺南児童館 TEL3315-1866
年中行事「大宮前の獅子舞・大黒舞」・「小正月」：郷土博物館（大宮1-20-8）
TEL3317-0841
どんど焼き：八成小学校（井草2-25-4）問い合わせ 井草児童館 TEL3390-9666

如月（2月）

高円寺演芸まつり：JR高円寺駅周辺 高円寺演芸まつり実行委員会 TEL3223-7500
年中行事「節分」・「初午」：郷土博物館（大宮1-20-8） TEL3317-0841

弥生（3月）

ひな祭り
年中行事「桃の節供」：郷土博物館（大宮1-20-8）
TEL3317-0841
春の草花・植木・野菜等即売会：杉並区役所前
（阿佐谷南1-15-1）
区産業振興センター TEL5347-9136



卯月（4月）

桜：都立善福寺公園・都立和田堀公園
高円寺びっくり大道芸：JR高円寺駅周辺
高円寺びっくり大道芸実行委員会 TEL3311-4522



皐月（5月）

菖蒲湯の無料入浴サービス（小学生以下）：区内公衆浴場
年中行事「端午の節供」：郷土博物館（大宮1-20-8）TEL3317-0841

水無月（6月）

久我山ホテル祭り：神田川「清水橋」付近、玉川上水「岩崎橋」下流付近
久我山ホテル祭り実行委員会 TEL3333-6867

文月（7月）

年中行事「七夕」：郷土博物館（大宮1-20-8）
TEL3317-0841



はづき

葉月（8月）

阿佐谷七夕まつり：阿佐谷パールセンター（JR阿佐ヶ谷駅周辺）

阿佐谷商店街振興組合 TEL 3 3 1 2 - 6 1 8 1

東京高円寺阿波おどり：JR高円寺駅・東京メトロ丸ノ内線新高円寺駅周辺

NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会 TEL 3 3 1 2 - 2 7 2 8

ながつき

長月（9月）

年中行事「十五夜」：郷土博物館（大宮1-20-8） TEL 3 3 1 7 - 0 8 4 1

かんなづき

神無月（10月）

年中行事「十三夜」：郷土博物館（大宮1-20-8）

TEL 3 3 1 7 - 0 8 4 1

阿佐谷ジャズストリート：JR阿佐ヶ谷駅周辺

阿佐谷ジャズストリート実行委員会 TEL 5 3 0 5 - 5 0 7 5

高円寺フェス：JR高円寺駅周辺

高円寺フェス実行委員会 TEL 3 3 1 3 - 5 5 8 9

年中行事「荒神様のおたち」：郷土博物館（大宮1-20-8）

TEL 3 3 1 7 - 0 8 4 1



しもつき

霜月（11月）

すぎなみフェスタ：桃井原っぱ公園

すぎなみフェスタ実行委員会（区役所区民生活部文化・交流課

すぎなみフェスタ担当 TEL 3 3 1 2 - 2 1 1 1）

荻窪音楽祭：JR荻窪駅周辺

「クラシック音楽を楽しむ街・荻窪」の会 TEL 5 3 4 7 - 0 2 4 4

農業祭・秋の草花・植木・野菜等即売会：桃井原っぱ公園

区産業振興センター TEL 5 3 4 7 - 9 1 3 6

大田黒公園ライトアップ：大田黒公園管理事務所 TEL 3 3 9 8 - 5 8 1 4

年中行事「荒神様のお帰り」：郷土博物館（大宮1-20-8） TEL 3 3 1 7 - 0 8 4 1



しわす

師走（12月）

年中行事「ヨウカゾ」：郷土博物館（大宮1-20-8）

TEL 3 3 1 7 - 0 8 4 1

年中行事「すす払い」：郷土博物館（大宮1-20-8）

TEL 3 3 1 7 - 0 8 4 1

[冬至の日]

ゆず湯の無料入浴サービス（小学生以下）：区内公衆浴場



[毎月第三日曜日午前8時～11時] 西荻あさ市：西荻東銀座会（JR西荻窪駅南口）

歴史

○旧石器時代

区内には、北部に井草川～妙正寺川、中央部に善福寺川、南部に神田川がそれぞれ東流しており(井草川は現暗渠)、これら河川の周辺の台地上や湧水地付近には、3万数千年前から現在に至るまでの人々の生活跡が遺されています。

区内の旧石器時代の代表的な遺跡としては、井草川流域では井草遺跡・井草遺跡C地点・遅ノ井遺跡B地点、善福寺川流域では川南遺跡・白幡遺跡、神田川流域では向ノ原遺跡・高井戸東遺跡・堂の下遺跡・下高井戸塚山遺跡などがあります。

特に、高井戸東遺跡などの立川ローム第X層から出土した局部磨製石斧は、3万数千年前の日本最古級の石器として注目されています。これらの石器は地表下3mほどの地層から出土するため、大規模な工事が行われる機会に発見されることが多いです。

○縄文時代

縄文時代になると区内の遺跡の数は急激に増加し、河川の周辺の急崖な台地上や台地の縁辺、ときには低地などいたるところに生活の場を求めていたことがわかります。代表的な遺跡としては、関東地方の縄文時代早期の標式土器である井草式土器が出土した井草遺跡、中期の環状集落で有名な下高井戸塚山遺跡、草創期から後期に至る十数万点の土器片が出土した向方南遺跡、関東地方でもまれな草創期の爪形文土器の良好な資料が出土した向ノ原遺跡B地点などがあります。遺跡の数・内容ともに、杉並の地は縄文時代の遺跡の宝庫といえます。

○弥生時代

弥生時代を代表する遺構としては環濠集落や方形周溝墓などがあげられます。環濠集落は周囲を濠で囲まれた集落、方形周溝墓は周囲を溝で四角く囲んだお墓です。これらは個人ではなく、集団で関与して営まれたものと考えられています。

方南峰遺跡と済美台遺跡、鎌倉橋上遺跡では環濠集落が発見されており、和田堀公園内の大宮遺跡と堂の下遺跡では方形周溝墓が発見されています。また、鎌倉橋上遺跡では炭化米などのイネ科の資料も発見されており、区内ではまだ水田遺構は見つかっていないものの、米を食べる文化は始まっていたようです。

これらの遺跡は、集落社会が家族単位の社会からムラ単位の社会へと変化しつつあることを伝える遺跡といえます。

○古墳時代

集落が集中・統合されていた弥生時代に比べ、この時代になるといわゆる大和政権の政策に基づき、組織的に集落は拡散したと思われ、しかも人口の増加と比例してか大規模な集落が各地で発見されています。

古墳時代の代表的な集落遺跡としては、矢倉台遺跡・松ノ木遺跡・済美台遺跡・釜寺東遺跡・高井戸東遺跡などがあります。発掘調査では、この時期に日常的に使用された土師器が出土しています。

済美台遺跡では、祭祀に使用したと考えられる白玉・石製模造品が多量に出土していますが、その数は都内の同時期の遺跡と比較しても圧倒的な量を誇っており、区の文化財に指定されています。

また、高千穂大学大宮遺跡では5世紀末に位置づけられる円形の古墳が調査されています。

○古代

奈良時代になると、武蔵国府が現在の府中に置かれ、国府・豊島駅間の中間駅として、乗瀨(あまぬま)駅が設置されました。乗瀨駅がなくなった時期は不明ですが、現在の天沼に所在していたといわれています。

区内の大部分は、平安時代に編集された『倭名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)』にあげられた多摩郡内10郷うちの海田(あまた)郷に属していたようで、区内の和田が海田の遺名であるとの説もあります。

なお、向山遺跡や丸山遺跡、本村原遺跡C地点では平安時代の住居跡も発見されています。

○中世

熊野那智神社に伝わる『那智米良(めら)文書』の、応永27(1420)年の文書に「中野殿、あさかやとの」とあり、阿佐ヶ谷の

地名を名乗る武士が存在していたことを示しています。

また、『上杉家文書』の宝徳3(1451)年の室町幕府下知状の写しには、鎌倉円覚寺の宝亀庵および受勝軒の寺領である越後国中治田保と、道悦(関東管領上杉憲実の弟重方の法号)の知行している堀内・下萩窪・泉(和泉)村とを交換することを幕府が承認した事が書かれています。この文書により、当時、堀ノ内・和泉などに、「村」の行政単位でとらえられる十分に開発された田畑・農家・農民の存在を確認することができます。

善福寺池周辺には、善福寺と万福寺(東福寺ともいう)があったと伝えられています。江戸時代に編まれた『新編武蔵風土記稿』では、寺は池畔にあったが地震のため池水が溢れ崩壊したとされていますが、両寺に関する資料は発見されていません。

○近世

徳川幕府が江戸に開かれるとともに、村々では支配機構が確立され、また新田開発による開村もあり、江戸時代前期には杉並区域に20の村が成立しました。これらの村々は、幕府直轄領や山王神社領、旗本の岡部氏領(元禄以後なし)、今川氏領、内田氏領、あるいは一村を複数の領主が支配する相給村の場合もありました。

また杉並の村々は將軍家が鷹狩りをおこなう鷹場に設定されていました。そのため個別の領主支配を越えて組合村をつくり、江戸城内で消費される物資などを上納する役を果たしました。高円寺村には、鷹場を維持管理する役人である鳥見の役宅が置かれていました。

江戸近郊の農村地帯であった杉並地域は、江戸の武家屋敷や大店の下肥を利用したり、糠などの肥料を購入して、野菜などをつくり、それを江戸へ販売、供給するような経済圏を形成していました。杉並区域に住んでいた人の多くは、農業に従事し収穫物の中から一定の年貢を領主や代官所に納めるほか、道路・橋梁の普請役及び助郷(すけごう)役などを務めました。助郷役は、宿駅に出す人足で、甲州街道・青梅街道の通行人や荷の増加に伴い、中野宿・上下高井戸宿・内藤新宿に対する人馬の課役が増加し、相当の負担になりました。そのため一度に複数の課役がかかる際には、それに反対する請願を行うこともありました。

○近・現代

<行政の変革>

明治維新によって徳川幕府から明治政府へ政権が変わり、大部分が幕府直轄領であった区内の村々は武蔵知県事の支配となり、ついで品川県に編入されました。明治4(1871)年、戸籍法(5年実施、壬申戸籍といわれる)の実施に伴い、江戸時代から続いた名主制度が廃止されて、戸長・副戸長の制度となりました。同時に、杉並区域の村々は、明治6(1873)年から東京府第8大区5小区と6小区に属しました。また、明治5(1872)年の学制実施によって、同8(1875)年4月に区内に小学校が設立されました。

明治11(1878)年、郡区町村編成法によって東京府は府下15区(市街地)と6郡(郷村地)に分けられ、杉並区域は東多摩郡に属しました(東多摩郡は明治29(1896)年に南豊島郡と合併し、豊多摩郡と変更)。次いで区町村会法が公布され、区内20か村は2か村又は4か村が連合して6つの連合村を組織し、各々に戸長が置かれて戸長役場(村役場の前身)が設けられ、連合村会も持たれました。

さらに、明治21(1888)年には市制及び町村制が公布されて、区内20か村は4か村あるいは6か村ごとに合併し、翌22(1889)年には杉並・和田堀内・井荻・高井戸の4か村となりました。

<町への発展>

画期的な変化をもたらしたのは、大正12(1923)年9月の関東大震災後、東京市の人口が郊外に流出したことでした。甲武鉄道(現JR中央線)沿線には、文人・軍人・学者なども多く移り住み、明治24(1891)年に開業した甲武鉄道荻窪駅を中心として著しい発展をしていきました。

また井荻村では、国内でも有数の規模で行われた区画整理によって住宅地としても環境が整えられました。杉並村は区内では最も早い大正13(1924)年6月に町制を敷きました。その後、同15(1926)年7月には和田堀内(このとき和田堀と改めた)・井荻・高井戸の3か村が相次いで町になりました。

<区の誕生>

昭和7(1932)年10月1日、新市域に新しく20の区が置かれたとき、杉並・和田堀・井荻・高井戸の4町が合併し、東京市杉並区が誕生しました。そして、昭和18(1943)年7月、新たに都制が施行されると東京府東京市は東京都となり、本区は、この時から東京都杉並区になりました。

戦後、地方自治法の公布により、都の区は特別区とされ、市に近い性格を与えられました。一時は都の内部団体とされ区長公選も廃されましたが、その後、昭和40(1965)年の大幅な事務事業移管を経て昭和50(1975)年4月からは、地方自治法改正に基づき区長公選制が復活しました。

さらに、平成12(2000)年4月から、特別区制度改革と地方分権改革が行われ、清掃事業など区民に身近な仕事を区が行うことになったのをはじめ、財政面でも自主性が強化されることになりました。

こうして、「基礎的な地方公共団体」としての区の新しい時代がスタートすることになったのです。

杉並区の昭和史

- 昭和 7年10月・杉並区誕生
人口14万6,560人、世帯数3万1,583世帯
開庁時の区組織5課17係、小学校(尋常・高等)19校
- 昭和 8年
・区の予算49万7,779円
8月・井の頭線開通
- 昭和 9年
・農家戸数全市で7位 1,088戸
11月・東京市杉並職業紹介所設置
- 昭和10年 4月・杉並区公報(現・広報すぎなみ)創刊
・杉並高等家政女学校開校
7月・杉並第四小学校に区内唯一のプール
10月・井荻町土地区画整理組合事業完了
- 昭和11年 1月・商工青年学校で飛行機製作
- 昭和12年 4月・水道道路(井ノ頭通り)開通
11月・杉並保健相談所(現・杉並保健所)開設
- 昭和13年 1月・宮城遙拝の実施
- 昭和14年 9月・区役所庁舎完成(木造モルタル2階建)
- 昭和15年 5月・経済課新設(統制経済事務)
- 昭和16年
・商店数4,409、工場数136
4月・小学校26校が国民学校と改称
- 昭和17年 3月・都の清掃事務所を阿佐ヶ谷に
9月・戦時下体制強化として親切課、戦時生活課、防衛課などを設置
- 昭和18年 7月・都制が施行され「東京都杉並区」に
- 昭和19年 2月・富津学園開設
8月・学童集団疎開、長野・宮城県へ
11月・杉並初の空襲
- 昭和20年 3月・戦局緊迫化し授業中止
5月・杉並全域に最大の空襲
8月・米価10kg-3円77銭
10月・集団疎開学童の帰京始まる
12月・農地改革始まる
- 昭和21年
・方面委員は民生委員に移行
12月・国民学校26校、青年学校6校
- 昭和22年 4月・新居格区長就任(初の公選区長誕生)
5月・区立中学校20校開校
6月・これまでの町会制度を廃止、17出張所を新設
- 昭和23年
・道路舗装工事始まる
- 昭和24年 5月・第1回杉並子ども区議会開催
・天皇・皇后両陛下光明寮視察
11月・公設浴場、今川湯民営に
- 昭和25年
・区に商工相談所新設
3月・今井政吉氏が済美学園を区に寄贈
9月・小学校でパン給食完全実施
11月・区営競馬で戦災復興
・区青年問題協議会発足
- 昭和26年 3月・済美教育研究所開設
7月・農地委員会が農薬委員会に
9月・結婚相談所開設
11月・第1回総合文化祭
- 昭和27年 5月・杉並図書館単独の建物として開館
7月・寄留制度から住民登録法に
9月・区の紋章が決まる
10月・区制施行20周年記念式典を開催
11月・教育委員会設置
- 昭和28年
・土木事業に統合的な年次計画
10月・区営建売住宅公募
11月・都電複線完成
・公民館開館(杉並図書館併設)
- 昭和29年
・区立学校校舎の鉄筋化
5月・水爆禁止署名運動杉並協議会発足
8月・第1回阿佐谷七夕まつり
- 昭和30年
・重点施策に特殊学級整備を
8月・蚊とハエをなくす区民運動開始
・第1回美術家展
11月・米価10kg-765円
- 昭和31年 6月・区長選任制移行で高木敏雄区長就任
- 昭和32年
・中学校屋内運動場建設
7月・杉並公会堂開設
8月・第1回高円寺ばか踊り(現:東京高円寺阿波おどり)開催
・二部授業解消
- 昭和33年 9月・狩野川台風で区に災害救助法(適用床上浸水4,110戸)
- 昭和34年 10月・久我山会館開館
11月・国民年金スタート
12月・国民健康保険事業スタート
- 昭和35年
・小学校プール建設
- 昭和36年 4月・街路灯5ヵ年計画スタート
- 昭和37年 1月・地下鉄丸ノ内線開通
5月・区民寮すぎなみ荘開設
・区長選任で議場に警官隊導入
11月・交通安全協議会発足
- 昭和38年 7月・区役所新庁舎完成
9月・住居表示開始(昭和44年11月完了)
11月・初の敬老会館上荻窪に開館
12月・都電杉並線廃止
・環状七号線開通
- 昭和39年 7月・学童保育開始
11月・消費者相談の窓口開設
- 昭和40年 3月・交通安全杉並区宣言
4月・地方自治法改正による大幅な事務移管で部制施行
・土木事業6ヵ年計画スタート
・中学校完全給食へ
12月・区に電子計算機導入
- 昭和41年 4月・行政施設建設5ヵ年計画
6月・台風4号で災害救助法適用
11月・都が高井戸に杉並清掃工場建設を発表
12月・遊び場対策本部設置
・桃園川の下水道工事進む
- 昭和42年 4月・区立学校で校庭開放
12月・杉並会館開館
- 昭和43年 4月・杉並区長期基本計画審議会が区長へ答申
10月・交通災害共済制度事業スタート
- 昭和44年 4月・科学教育センター(後の科学館。現在は廃止)開設
・住民基本台帳制度発足
・中央線4駅高架工事完了(荻窪-三鷹間)
11月・住居表示完了
- 昭和45年 4月・初の区立幼稚園開園
5月・区の将来像は「緑の豊かな福祉文化都市」
6月・区政モニター制度発足
7月・初の光化学スモッグが区内で発生
12月・児童福祉センター開館
・菅平学園開園
- 昭和46年 2月・緑化対策で苗木を配布
12月・地域地区改正で審議会発足
- 昭和47年 4月・建築紛争相談所を開設
・公害監視委員会発足
・杉並児童交通公園開園
9月・杉並区緑化計画審議会発足
10月・区制施行40周年記念式典を開催
11月・宮前図書館開館
- 昭和48年 3月・消火器を主要道路に設置
5月・障害児も保育する荻窪南保育園開園
7月・老人医療費助成65歳以上に引き下げ
・休日急病テレホンサービス開始
10月・みどりの条例制定、区のシンボルツリー決まる
- 昭和49年 5月・魚の産直を実施
8月・浜田山区民農園オープン
9月・南伊豆養護学園(後の南伊豆健康学園。現在は廃止)開園
11月・児童交通公園にD51蒸気機関車を設置
・杉並清掃工場建設に関する和解成立
- 昭和50年
・松ノ木遺跡から、日本で初めてダニの跡のある土器片が出土
1月・毎月1回、お年寄りに公衆浴場を無料開放
・食肉の産直実施
4月・区長の公選制が復活、保健所が区に移管
9月・杉並区行政緊急対策本部を設置
10月・印鑑登録・証明制度を変更

昭和51年	1月・区立施設の使用料を改定 2月・保育料問題がクローズ・アップ 3月・西保健所にガン検診機を導入 4月・松溪公園開園 5月・中央自動車道高井戸～調布間が開通	昭和58年	1月・杉並清掃工場の本格操業開始 3月・区役所第二庁舎完成 ・第3回緑化基本調査の最終結果を報告 ー杉並区の緑被率 20.84 %ー ・区内の河川生物調査の結果を報告
昭和52年	1月・保育料を改定 ・飲料専用消火バケツを区内全世帯に配布 4月・移動図書館「たびびとくん」運行開始 7月・上井草地区居住環境整備がスタート 8月・8月～10月第2回緑化基本調査 ー杉並区の緑被率は 21.56 %ー 12月・基本構想策定「緑の豊かな福祉文化都市」 ・歯科休日急病診療を開始	昭和59年	4月・高井戸地域区民センター、老人福祉センター（現・高齢者活動支援センター）、高井戸温水プール開設 ・梅里区民集会所オープン ・松田良吉区長就任 10月・不燃化促進助成制度開始 ・第四次行財政実施計画を策定 ・杉並区震災対策推進計画を定める ・杉並区雨水流出抑制対策推進計画を定める
昭和53年	4月・久我山小学校開校 8月・杉並区自動車駐車場管理及び利用に関する公害防止指針の制定 9月・個人情報の保護に関する条例区議会で可決 10月・休日の夜間急病診療所を開設 ・中高層建築物の日影規制実施 12月・直接請求に係る「個人情報保護のための杉並区電子計算組織運用規制条例(案)」の審議、臨時区議会	昭和60年	11月・荻窪駅北口再開発ビル完成 3月・杉並区緑化基本計画・同推進計画を定める ・「ワンルームマンション」の建築指導要綱を施行 4月・デイホームすぎなみ事業開始 ・区立図書館全館の漢字オンラインシステムがスタート 5月・「湯河原すぎなみ荘」新装オープン 9月・上高井戸区民集会所オープン ・自転車の放置防止及び駐車場整備に関する条例制定
昭和54年	3月・荻窪地域区民センター開設 4月・済美養護学校開校 ・あき地の適正化に関する指導要綱の制定 ・区議会議員・区長選挙 5月・筑波移転跡地の利用で署名運動 7月・国際児童年にあたり区の基本方針を設定 ・杉並区震災対策緊急整備計画を定める ・筑波移転跡地についての大蔵大臣ほかへ陳情 ・荻窪駅北口再開発の工事開始 10月・上井草総合運動場が区に移管 11月・区職員超過勤務手当に関する住民監査請求の提出 12月・区教育委員会の組織改正、学校教育部と社会教育部の設置	昭和61年	12月・勤労福祉会館・西荻地域区民センター開設 3月・老人実態調査 ・気象研究所跡地に馬橋公園開園 4月・四宮区民集会所オープン 5月・上井草保健相談所オープン ・広報紙 1,000 号を発行 6月・阿佐谷地域区民センターオープン ・防災無線ジャックが起る ・大学公開講座スタート 8月・行財政改善計画を策定 9月・成田図書館オープン 11月・雨水流出抑制対策推進計画を策定
昭和55年	1月・区職員超過勤務手当に関する住民監査請求の結果公表 3月・都杉並福祉作業所・杉並生活実習所 ・杉並授産場が区に移管される ・地域地区の指定見直し素案の作成 4月・弓ヶ浜学園開園 5月・筑波移転跡地利用で国有財産中央審議会が答申 10月・「不燃化促進計画推進協議会」発足	昭和62年	3月・住民基本台帳オンラインシステム稼働開始 4月・杉並第十小学校の移転開校 ・いじめ電話相談開設 6月・杉並区老人問題懇談会「区における老人福祉施策の推進について杉並高齢化社会と福祉サービス」と題する意見を区長に提出 ・勤労者共済会スタート 8月・蚕糸試験場跡地に蚕糸の森公園開園 11月・家庭訪問歯科診療がスタート ・東原児童館オープン ・区議会議員定数削減案可決（定数 56 人から 52 人に削減）
昭和56年	2月・和泉保健相談所オープン 3月・中杉通り開通式 4月・衛生試験所オープン 6月・済美養護学校に障害幼児教育開設 7月・「杉並区省エネルギー・省資源区民懇談会」発足 8月・阿佐谷けやき公園・プールがオープン 9月・蚕糸跡地周辺まちづくり協議会発足 ・荻窪駅北口再開発ビルがオープン 10月・大田黒公園開園 ・荻窪駅北口再開発ビルに荻窪サービスコーナーが開設 ・「杉並区自転車問題協議会」発足 ・第三次行財政実施計画を策定 ・「気象研跡地周辺地区懇談会」発足 12月・区職員の給与等の実態を公表（以後、毎年 12 月に公表）	昭和63年	1月・環状七号線沿道整備計画開始 2月・ケアセンター、特別養護老人ホーム「第二南陽園」オープン 4月・児童館が通年開館に ・荻窪・西荻・高井戸の各地域区民センターや体育館が住民による管理・運営に ・区議会議員・区長選挙 ー松田良吉区長再選ー ・和田中央児童館、和田中央公園オープン ・永福南小学校開校 6月・情報公開・個人情報保護制度開始 7月・蚕糸の森公園にデイキャンプ場を設置 2月・用途地域の見直し原案を都に提出 3月・杉並区平和都市宣言 ・塚山公園開園「知る区ロード」のルート決定 5月・精神薄弱者授産施設「あけぼの作業所」オープン 6月・第1回「知る区ロード探検隊」が大好評 7月・西荻南区民集会所・児童館オープン 9月・和田堀公園にカワセミ再現 ・消費税導入反対決議を可決 ・基本構想策定「みどり豊かな福祉と文化のまち」 12月・杉並区長期計画・実施計画策定
昭和57年	2月・地域福祉協議会が「障害福祉施策の長期的、総合的あり方」を報告 4月・文化財保護条例を制定 6月・区職員の勤務時間の監査結果を公表 9月・杉並区歌・杉並音頭を制定 10月・区制 50 周年記念式典を開催 ・中央図書館開館 ・第3回緑化基本調査の結果（中間報告）を公表 11月・区登録・指定文化財を決定		

杉並区の平成史

- 平成元年 2月・区民専用掲示板「でんごんくん」設置開始
 3月・公民館閉館
 4月・第二、第四土曜開庁開始、テレホン広報開始
 5月・方南児童館移転オープン、郷土博物館開館
 6月・社会教育センター・高円寺地域区民センター「セッション杉並」開設
 7月・済美教育研究所改装オープン
 ・北海道風連町（現・名寄市）と交流自治体協定締結
 ・久我山会館改装オープン
 8月・群馬県吾妻町（現・東吾妻町）と友好自治体協定締結
 ・阿佐ヶ谷中学校改装オープン
 9月・杉森中学校改装オープン
 10月・第1回杉並区産業まつり
- 平成2年 2月・区役所西棟新庁舎、阿佐ヶ谷中学校校舎完成
 3月・平和都市宣言記念像「ジーンズ」建立
 ・まちづくり基本方針策定
 4月・高円寺北高齢者住宅サービスセンターオープン
 5月・西荻図書館オープン
 ・オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州ウイロビー市と友好都市協定締結
 9月・第二次行財政改善計画（3年～5年）
 ・杉並区実施計画（3年～5年）
- 平成3年 2月・富士学園改装オープン
 4月・区議会議員・区長選挙一松田良吉区長三選一
 ・方南区民集会所オープン
 ・公民館跡地記念碑「オーロラ」建立
 6月・荻窪体育館開館
 ・助役2人制に
 7月・杉並区国際交流協会設立
 8月・永福和泉地域区民センターオープン
 10月・さんあい公社事業開始
 ・集団回収(団体、グループ)事業スタート
 ・馬橋出張所移転オープン
 ・上高井戸みどりの里オープン
 12月・大韓民国ソウル特別市瑞草区と友好都市協定締結
 ・下高井戸運動場改築オープン
 ・下高井戸区民集会所オープン
 ・馬橋児童館オープン
- 平成4年 2月・区役所中棟新庁舎・駐車場完成
 3月・杉並区コミュニケーションマーク制定（10月使用開始）
 4月・(財)杉並区勤労者福祉協会設立
 5月・住宅マスタープラン、地域高齢者住宅計画を作成
 7月・完全週休二日制（土曜開庁）開始
 8月・和田みどりの里オープン
 9月・和田高齢者住宅サービスセンターオープン
 10月・区制施行60周年記念式典を開催
 11月・本天沼区民集会所オープン
 ・松庵みどりの里オープン
 12月・清水高齢者住宅サービスセンターオープン
 ・清水みのり工房オープン
 ・「杉並百景」決まる
- 平成5年 2月・阿佐谷図書館オープン
 ・大宮堀ノ内敬老会館オープン
 3月・住宅基本条例制定
 ・区役所東棟新庁舎完成
 4月・井荻サービスコーナーオープン
 ・重度身体障害者通所施設「こすもす生活園」開設
 5月・保健・福祉計画策定
 7月・区役所地下駐車場休日に一般開放開始
 8月・井草地域区民センターオープン
 ・阿佐谷出張所移転オープン
 9月・けやき生活園オープン
 ・リサイクルショップすぎなみオープン
 10月・(財)杉並区スポーツ振興財団、(財)杉並区国際交流協会設立
 ・杉並区長期計画改定・実施計画策定
 11月・南荻窪図書館オープン
- 平成6年 2月・浜田山会館改築、浜田山サービスコーナーオープン
 ・下井草出張所改築オープン
 3月・障害者事業団リサイクル自転車を販売開始
 4月・高円寺南みどりの里オープン
 ・杉並区リサイクル協会設立
 5月・和泉みどりの里オープン
 6月・和泉高齢者在宅サービスセンターオープン
 ・在宅介護支援センター「ケア24西荻」オープン
 7月・産業商工会館・阿佐谷敬老会館改装オープン
 ・(財)杉並区国際交流協会外国人のための相談窓口開設
 ・保養施設「すぎなみ自然村」開業
 11月・在宅介護支援センター「ケア24阿佐谷」オープン
 12月・杉の木歯科診療所オープン
- 平成7年 2月・荻窪・下井草高齢者在宅サービスセンターオープン
 4月・和田区民集会所オープン
 ・和田障害者交流館オープン
 ・生涯学習振興室「西田ゆうゆうハウス」オープン
 ・西荻サービスコーナーオープン
 ・ひまわり作業所移転オープン
 ・本橋保正区長就任
 5月・郷土博物館「西田小学校郷土資料展示室」オープン
 6月・南荻窪みどりの里オープン
 8月・浜田山みどりの里オープン
 10月・在宅介護支援センター「ケア24和田」オープン
 ・杉並区実施計画策定
- 平成8年 1月・行政手続条例施行
 ・上荻高齢者住宅サービスセンターオープン
 2月・杉並区環境基本計画策定
 4月・井草森公園開園
 5月・在宅介護支援センター「ケア24高井戸」オープン
 ・職員研修所「秋川荘」改築オープン
 ・新用途地域告示
 6月・阿佐谷北高齢者在宅サービスセンターオープン
 ・福祉機器展示センターオープン
 7月・井草みどりの里オープン
 10月・天沼みどりの里オープン
 ・行財政改革推進計画策定
 12月・八成区民集会所オープン
- 平成9年 3月・松ノ木高齢者在宅サービスセンターオープン
 ・下井草みどりの里オープン
 ・堀ノ内みどりの里オープン
 4月・環境基本条例施行
 ・こども発達センター開設
 ・上高井戸児童館改築オープン
 ・桜上水北サービスコーナーオープン
 5月・まちづくり基本方針
 （都市計画マスタープラン）策定
 ・下井草図書館オープン
 6月・特別養護老人ホーム「上井草園」オープン
 ・上井草高齢者在宅サービスセンターオープン
 ・在宅介護支援センター「ケア24上井草」オープン
 9月・児童青少年センター・男女平等推進センター「ゆう杉並」開設
 10月・すぎなみフェスティバル'97
 ・杉並区実施計画策定
 12月・杉並区男女共同参画都市宣言
- 平成10年 1月・生涯学習振興室「杉九ゆうゆうハウス」オープン
 2月・上井草スポーツセンター開設
 5月・高井戸図書館オープン
 ・梅里堀ノ内敬老会館オープン
 6月・清潔で美しい杉並区をみんなでつくる条例施行
 ・宮前みどりの里オープン
 7月・方南ふれあい図書室・馬橋ふれあい図書室オープン
 9月・杉並区文化振興協会設立
 10月・(財)杉並区障害者雇用支援事業団設立
- 平成11年 3月・杉並区みどりの基本計画策定
 ・地域振興券交付
 ・上高井戸敬老会館オープン
 4月・杉並保健所・荻窪保健センター・保健医療センターの複合施設オープン
 ・山田宏区長就任
 5月・地域生活支援センター「オブリガード」保健医療センター内にオープン

	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護支援センター「ケア24荻窪」「ケア24堀ノ内」オープン 		<ul style="list-style-type: none"> 8月・安全パトロール隊発足
	7月・桃井児童館オープン		9月・公共施設予約システム「さざんかねっと」開始
	10月・介護保険、要介護認定申請開始	平成16年	10月・安全美化条例・路上禁煙地区開始
	・杉並区公式ホームページ開設	4月・複合施設「あんさんぶる荻窪」開設	7月・防犯カメラの設置及び利用に関する条例施行(全国初)
	11月・リサイクルひろば高井戸開設		10月・柏の宮公園開園
	・健康増進センター「ウエルネス杉並」オープン		11月・南北バスすぎ丸「さくら路線」の開通
	・平成10年度末の「貸借対照表(バランスシート)」を初めて作成	平成17年	3月・杉並アニメーションミュージアム開館
平成12年	1月・杉並区公式ホームページ本格稼働	3月・ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊さんの提案による「科学と自然の散歩みち」が完成	4月・新しいタイプの学校づくりをスタート(小中一貫教育、地域運営学校)
	3月・12年度行財政再建緊急プラン策定	4月・新しいタイプの学校づくりをスタート(小中一貫教育、地域運営学校)	7月・区独自の教師養成塾「杉並師範館」設立
	・事務事業評価制度を開始	9月・集中豪雨による水害(床上・床下浸水など2,300戸以上)	・ホログラムつき国民健康保険証の発行(都内初)
	・方南敬老会館オープン	・カラス対策の「黄色いごみ袋」を杉並区推奨袋とする(23区初)	
	4月・改正地方自治法が施行され特別区が「基礎的な地方公共団体」となる	11月・方南図書館オープン	
	・介護保険制度開始	平成18年	2月・杉並区コールセンター開設
	・「保健・福祉計画」「介護保険事業計画」策定	3月・読書の森公園開園	4月・犯罪被害者支援制度がスタート(全国初)
	・杉並区実施計画修正(12年度単年度)	・「すぎなみ地域大学」開校	・「すぎなみ学倶楽部」の本格始動
	・「杉並区議会情報公開条例」制定・施行	・杉並師範館開塾	・杉並区成年後見センターオープン
	6月・「ダイオキシンの条例」制定・施行	・敬老会館の名称を「ゆうゆう館」に変更	6月・杉並公会堂改築
	7月・ふれあい収集(ごみ出しが困難な方への戸別収集)開始	・「杉並ウエストサイズ物語」(メタボリックシンドローム予防普及啓発)の展開	9月・区公式アニメキャラクター「なみすけ」を選定
	・「特定商業施設の出店及び営業に伴う住宅地に係る環境の調整に関する条例」制定・施行	10月・全事務事業(計869事業)を対象に「杉並行政サービス民間事業化提案制度モデル事業」を公募	・廃プラスチックのサーマルリサイクルモデル実施開始
	9月・基本構想(杉並区21世紀ビジョン)策定	12月・高井戸駅前事務所の移転オープン	平成19年
	「区民が創る「みどりの都市」杉並」	1月・レジ袋有料化モデル事業開始	2月・西荻窪駅前事務所オープン
	10月・杉並区基本計画(平成13～22年度)、杉並区実施計画(平成13～15年度)策定	4月・区が独自に採用した教員を小学校に配置	4月・天沼弁天池公園・郷土博物館分館開館
	・すぎなみスポーツまつり	・区議会議員・区長選挙	・山田宏区長三選
	・「スマートすぎなみ計画」策定	5月・プロゴルフ日本男子ツアーで史上最年少優勝した杉並学院高校1年の石川遼さんにスポーツ栄誉章	・高円寺駅前事務所オープン
	・杉並・わがまちクリーン大作戦開始	6月・杉並子育て応援券事業開始	8月・副校長二人制の実施
	11月・南北バス「すぎ丸」運行開始	10月・杉並区実施計画(20～22年度)策定	11月・日印交流年記念フェアの実施
	・中学校対抗駅伝大会	11月・区制施行75周年記念事業「相馬野馬追」の実施	12月・ゆうゆう今川館・今川図書館オープン
平成13年	3月・方南ふれあいの家オープン	平成20年	2月・初の土曜区議会開会
	4月・12部を5部と教育委員会に組織再編(政策経営部、区民生活部、保健福祉部、都市整備部、環境清掃部、教育委員会)	4月・区内初の統合新校となる天沼小学校開校	4月・区独自の「30人程度学級」実施
	・17出張所を7区民事務所・2分室・荻窪サービスコーナーに再編	・副区長二人制に	・レジ袋有料化等の取組の推進に関する条例を施行
	・アニメーションフェスティバル2001 in杉並	・後期高齢者医療制度がスタート	5月・本庁舎南側壁面に緑のカーテン設置
	7月・西荻窪に駅前保育所オープン	7月・住基ネットへの参加を決定	9月・本庁舎の土日開庁を開始
	9月・住民基本台帳に係る個人情報の保護に関する条例制定	10月・納付センターを開設	12月・南北バスすぎ丸「かえで路線」の開通
	10月・「杉並福祉サービス支援センター」オープン	12月・杉並区景観条例を制定	
	・環境博覧会すぎなみ2001	平成21年	1月・住基ネット業務開始
	・環境マネジメントシステム「ISO14001」認証を取得	3月・杉並中継所廃止	・まちづくり条例を改正
	・子育てサロン「ゆうキッズ」スタート		
平成14年	12月・杉並区・瑞草区友好都市提携10周年記念式典		
	1月・杉並まち自慢完成		
	2月・東福祉事務所移転(高円寺南2丁目)		
	3月・教育アクションプラン策定		
	4月・「めざせ五つ星の区役所」運動開始		
	・杉並区NP0・ボランティア活動及び協働の推進に関する条例制定		
	6月・初の女性議長誕生		
	10月・区制施行70周年記念式典を開催		
	・杉並区実施計画(15～17年度)策定		
	・全国男女共同参画宣言都市サミット開催		
	11月・すぎなみエコシール事業スタート		
	・自治基本条例制定		
	12月・小柴昌俊さんがノーベル物理学賞受賞		
	・障害者区議会の開催		
平成15年	1月・ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊さんが名誉区民の第1号になる		
	4月・環境基本計画策定		
	・アニメ資料館開館(杉並会館内)		
	・都内初の民間人校長誕生(和田中学校)		
	・区議会議員・区長選挙一山田宏区長再選		
	5月・自治基本条例施行		
	6月・国民健康保険料のコンビニ納付開始(全国初)		
	7月・荻窪・高井戸駅前事務所開設		

4月	・荻窪小学校が移転開校 ・定額給付金の申請受付開始	11月	・すぎなみフェスタ2013を開催 ・区立施設再編整備計画(素案)、使用料等の見直し(素案)を策定		
5月	・杉並芸術会館「座・高円寺」開館 ・角川庭園・幻戯山房「すぎなみ詩歌館」開園 ・東京都青梅市と交流に関する協定締結 ・プレミアム付きなみすけ商品券発売	平成26年	2月	・「(仮称)荻外荘公園」の用地を取得	
6月	・拉致被害者家族を支援する集い開催 ・区内で初の新型インフルエンザが発生	3月	・区立施設再編整備計画(第一期)・第一次実施プランを策定		
7月	・初のITサミットを開催	4月	・大宮前体育館の開館		
8月	・減税自治体構想フォーラムを開催	6月	・区長選挙ー田中良区長再選ー		
10月	・路上禁煙地区での過料徴収開始 ・長寿応援ポイント事業開始	8月	・東京都・杉並区合同総合防災訓練の実施		
12月	・改正自治基本条例及び区民等の意見提出手続に関する条例を制定 ・子供園条例を制定	10月	・全国初の障害児保育園「ヘレン」の開園		
平成22年	3月	・坂の上のけやき公園オープン	11月	・すぎなみフェスタ2014を開催 ・ご当地ナンバー(杉並ナンバー)交付開始 ・杉並区総合計画(10年プラン)・実行計画(3年プログラム)改定	
5月	・荻窪駅北口駅前広場整備開始 ・杉並区・ウィロビー市友好都市協定締結20周年記念式典を開催 ・山田宏区長辞任	12月	・証明書コンビニ交付サービスを開始 ・自治体間連携による特別養護老人ホーム整備に係る基本合意書を静岡県南伊豆町および静岡県と取り交わす		
7月	・田中良区長就任 ・Aさんの庭オープン	平成27年	3月	・「(仮称)荻外荘公園」の今後のあり方に関する基本構想策定および公園南側部分の暫定解放	
8月	・100歳以上高齢者訪問面接調査実施	4月	・杉並区初の小中一貫教育校、杉並和泉学園開校 ・子どもセンター開設 ・生活自立支援窓口「くらしのサポートステーション」開設 ・区議会議員選挙		
9月	・高円寺駅周辺の整備開始 ・中学生環境サミット開始	5月	・危険ドラッグの売買等の対策に関する覚書の締結		
10月	・全区立小中学校へのエアコン設置を決定 ・杉並区電子地域通貨推進委員会の発足	7月	・なみすけナンバー(原動機付自転車用)の交付開始		
11月	・杉並区・東吾妻町友好自治体協定締結20周年記念式典を開催 ・杉並版「事業仕分け」の実施 ・区内初の統合新校である天沼小学校の新校舎完成	10月	・重症心身障害児通所施設「わかば」開設		
12月	・新たな基本構想づくりスタート ・杉並区長の在任期間に関する条例(多選自粛条例)廃止	11月	・すぎなみフェスタ2015を開催 杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定		
平成23年	3月	・東日本大震災による南相馬市への支援開始 ・区保有施設などに被災者受け入れ開始 ・小中学校全校に学校支援本部設置 ・荻窪駅北口駅前広場完成	平成28年	3月	・荻外荘(近衛文麿旧宅)が国の史跡に指定 ・ごみ収集車にAEDを配備
4月	・桃井原っぱ公園開園 ・巡回安全パトロールステーション設置 ・南相馬市復興支援のチャリティバザー開催 ・自治体スクラム支援会議立ち上げ ・震災復興支援のため南相馬市へ職員派遣を開始	4月	・成田西ふれあい農業公園開園		
5月	・区議会議員選挙	5月	・「待機児童解消緊急対策」の策定		
6月	・放射能測定の開始	7月	・狭あい道路拡幅整備条例を改正し、狭あい道路の拡幅に関する条例を施行		
7月	・安心おたっしや訪問事業開始 ・小中学校全校の普通教室にエアコン設置	11月	・すぎなみフェスタ2016を開催 ・杉並区実行計画(3年プログラム)改定 ・区立施設再編整備計画(第一期)・第一次実施プラン改定		
8月	・東京都青梅市と災害時相互援助協定締結	12月	・子ども子育てプラザ和泉開設		
10月	・瑞草区友好都市協定締結20周年記念式典を開催	平成29年	4月	・下高井戸おおぞら公園開園 ・認可保育所19カ所開設 ・「広報すぎなみ」リニューアル ・東京高円寺阿波おどり台湾公演開催	
11月	・杉並清掃工場建替事業に向けた環境影響調査実施	5月	・東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー開催		
12月	・東京都武蔵野市と災害時相互協力協定締結	6月	・杉並区いじめ問題対策委員会条例制定		
平成24年	2月	・福島県北塩原村と災害時相互援助協定締結	9月	・首都直下地震を想定した地震被害シミュレーションの公開	
3月	・基本構想(10年ビジョン)策定 「支えあい共につくる安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並」 ・杉並区総合計画(10年プラン)・実行計画(3年プログラム)策定	10月	・杉並清掃工場全面改築		
4月	・次世代育成基金を設置	11月	・すぎなみフェスタ2017を開催		
6月	・杉並区産業振興センター開設	平成30年	3月	・静岡県南伊豆町との自治体間連携による特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」開設 ・「ウェルファーム杉並」複合施設棟開設	
7月	・旧東電グラウンドの購入	4月	・保育の待機児童ゼロを初めて実現 ・日本フィルハーモニー交響楽団へ杉並区ふるさと納税で集まった寄附金を贈呈		
8月	・山梨県忍野村と災害時相互援助協定締結 ・平和市長会議に加盟	6月	・「振り込め詐欺被害0ダイヤル」開設 ・区長選挙ー田中良区長三選ー		
9月	・静岡県南伊豆町と災害時相互援助協定締結	9月	・永福体育館移転改修3施設でネーミングライツ事業開始		
10月	・区制施行80周年記念式典を開催	10月	・図柄入り杉並ナンバープレート交付開始		
12月	・就労支援センター開設	11月	・すぎなみフェスタ2018を開催 ・杉並区総合計画(10年プラン)・実行計画(3年プログラム)改定 ・区立施設再編整備計画(第一期)・第二次実施プラン策定 ・杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略改定		
平成25年	3月	・「待機児童対策緊急推進プラン」の策定	平成31年	4月	・2年連続で「待機児童ゼロ」を実現 ・高円寺子ども家庭支援センター開設 ・区議会議員選挙
4月	・(新)永福小学校の開校(永福南小と永福小を統合)				
5月	・杉並区協働提案制度開始				
6月	・狭あい道路拡幅整備の重点的取組を開始				
7月	・東京都小笠原村と子ども自然体験交流事業推進宣言を取り交わす				
8月	・杉並区平和都市宣言25周年事業の実施 ・ご当地ナンバー(杉並ナンバー)の導入決定				
9月	・2020東京オリンピック開催決定イベントを開催				

杉並区の令和史

- 令和元年
- 5月・イタリアオリンピック委員会とビーチバレーボール事前合宿に関する協定締結
 - 8月・子育て寄りそい訪問事業「ハロー！なみすけ訪問」開始
 - 9月・就学前教育支援センター「すぎっこひろば」開設
 - 11月・重度身体障害者通所施設「シャローム上井草さくら」開設
 - ・すぎなみフェスタ 2019 を開催
- 令和2年
- 2月・ウズベキスタン及びパキスタンとの間で「ホストタウン交流宣言」署名
 - 3月・新型コロナウイルス感染症対策のため、区立学校等の臨時休業、区事業の休止
 - 4月・3年連続で保育の「待機児童ゼロ」を実現
 - ・フードシェアリングサービス事業者と食品ロス削減協定を締結
 - 8月・杉並区基本構想審議会において新基本構想の審議を開始
 - 9月・杉並区立中央図書館のリニューアルオープン
 - 11月・勤労福祉会館・西荻地域区民センターのリニューアルオープン
 - ・すぎなみフェスタ 2020 を開催
 - ・AIロボットによる案内業務の実証実験の実施
- 令和3年
- 1月・新たな多世代型施設「コミュニティふらっと」開設
 - 2月・児童・生徒1人1台専用タブレット端末配備
 - 4月・4年連続で保育の「待機児童ゼロ」を実現
 - ・農福連携農園「すぎのこ農園」全面開園
 - ・新型コロナウイルス感染症ワクチン接種開始
 - 5月・庁舎案内業務を行う対話型AIロボット設置
 - 8月・IoT街路灯システムによる河川ライブカメラの配信開始
 - 10月・基本構想策定「みどり豊かな 住まいのみやこ」
 - 12月・特別養護老人ホーム「10年1000床整備計画」達成

交流自治体

杉並区と交流自治体協定等の歩み

令和4年(2022年)3月現在

平成元年(1989年)	7月13日	北海道風連町(現名寄市)と「交流自治体協定」締結
	8月6日	群馬県吾妻町(現東吾妻町)と「友好自治体協定」締結
平成2年(1990年)	5月11日	オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州ウィロビー市と「友好都市協定」締結
平成3年(1991年)	12月9日	大韓民国ソウル特別市瑞草区と「友好都市協定」締結
平成7年(1995年)	10月14日	北海道風連町(現名寄市)及び群馬県吾妻町(現東吾妻町)と「防災相互援助協定」締結
平成16年(2004年)	5月12日	新潟県小千谷市と「災害時相互援助協定」締結
	11月1日	福島県北塩原村と「まるごと保養地協定」締結
平成17年(2005年)	5月27日	福島県原町市(現南相馬市)と「災害時相互援助協定」締結
平成18年(2006年)	6月6日	市町村合併により北海道名寄市と「交流自治体協定」を再締結
	7月1日	市町村合併により北海道名寄市と「防災相互援助協定」を再締結
	8月26日	市町村合併により群馬県東吾妻町と「友好自治体協定」を再締結
	10月10日	市町村合併により群馬県東吾妻町と「防災相互援助協定」を再締結
平成19年(2007年)	2月19日	市町村合併により福島県南相馬市と「災害時相互援助協定」を再締結
平成21年(2009年)	5月21日	東京都青梅市と「交流に関する協定」締結
平成23年(2011年)	8月28日	東京都青梅市と「災害時相互援助協定」締結
	12月20日	東京都武蔵野市と「災害時相互協力協定」締結
平成24年(2012年)	2月25日	福島県北塩原村と「災害時相互援助協定」締結
	8月27日	山梨県忍野村と「災害時相互援助協定」締結
	9月14日	静岡県南伊豆町と「災害時相互援助協定」締結
平成25年(2013年)	7月26日	東京都小笠原村と「杉並区と小笠原村との子ども自然体験交流事業推進宣言」を取り交わす。
	12月28日	杉並区と台湾政府教育部体育署、台北市教育局等と「青少年の夢を育む交流事業推進宣言」を取り交わす。
平成27年(2015年)	4月26日	杉並区と国立台湾戯曲学院との「文化・芸術の相互交流推進宣言」を取り交わす。

北海道名寄市

◆面積 535.20 km²

◆人口 26,663人(令和3年【2021年】12月31日現在)

◆プロフィール

北海道の北部に位置し、作付面積日本一のもち米や、北海道有数の収穫量を誇るグリーンアスパラガスが有名です。また、夏にひまわりが咲き誇るまちとしても有名で、市内にはいくつものひまわり畑が存在します。杉並区とは平成元年7月13日に「交流自治体協定」を結び、平成7年10月14日に「防災相互援助協定」を結びました。

群馬県東吾妻町

◆面積 253.91 km²

◆人口 12,956人(令和4年【2022年】1月1日現在)

◆プロフィール

群馬県北西部にある吾妻郡の東南に位置し、名勝地吾妻溪谷を有する吾妻川をはじめ、「名水百選」に選ばれた箱

島湧水もあり、水と緑に恵まれた自然環境の豊かなまちです。杉並区とは平成元年8月6日に「友好自治体協定」を結び、平成7年10月14日に「防災相互援助協定」を結びました。

新潟県小千谷市

- ◆面積 155.19 km²
- ◆人口 34,065人（令和3年【2021年】12月28日現在）
- ◆プロフィール

新潟県のほぼ中央に位置し、魚沼産のコシヒカリやへぎそば、おちやちぢみ小千谷縮、そして錦鯉の産地として有名です。杉並区とは、小千谷市の学生寮が区内にあることから、区立公園への錦鯉寄贈等の交流が始まり、平成16年5月12日に「災害時相互援助協定」を結びました。

福島県北塩原村

- ◆面積 234.08 km²
- ◆人口 2,603人（令和3年【2021年】12月1日現在）
- ◆プロフィール

福島県の北西部に位置し、温泉水を煮詰めて作る伝統的な山塩や、標高800m以上の高地でないと栽培できないとされている豆「花嫁ささげ」が有名です。ぼんだいさん磐梯山や五色沼などの日本有数の景色を目当てに、年間を通して多くの観光客が訪れます。杉並区とは平成16年11月1日に「まるごと保養地協定」を結び、平成24年2月25日に「災害時相互援助協定」を結びました。

福島県南相馬市

- ◆面積 398.58 km²
- ◆人口 58,184人（令和3年【2021年】12月1日現在）
- ◆プロフィール

福島県浜通りの北部に位置し、東は太平洋に面し、西は阿武隈高地あぶくまこうちに接しており、豊かな自然と海洋性の穏やかな気候に恵まれたまちです。千年以上の歴史を誇り、国の重要無形民俗文化財に指定されている伝統の祭「相馬野馬追」が有名です。杉並区とは長年の少年野球のスポーツ交流の積み重ねを背景に、平成17年5月27日に「災害時相互援助協定」を結びました。

東京都青梅市

- ◆面積 103.31 km²
- ◆人口 131,124人（令和4年【2022年】1月1日現在）
- ◆プロフィール

東京都の多摩地区西部に位置し、杉並区からJR中央線で1時間強のところであり、自然や歴史、文化の豊かなまちです。「名水百選」に選ばれた御岳溪流や吉野梅郷などが有名です。杉並区とは平成21年5月21日に「交流に関する協定」を結び、平成23年8月28日に「災害時相互援助協定」を結びました。

東京都武蔵野市

- ◆面積 10.98 km²
- ◆人口 148,025人（令和4年【2022年】1月1日現在）
- ◆プロフィール

東京都のほぼ中央に位置し、杉並区に隣接する郊外住宅都市です。買い物客で賑わう吉祥寺、緑豊かな武蔵野中央公園、そして閑静な住宅地としてとても栄えています。杉並区とは平成23年12月20日に「災害時相互協力協定」を結びました。

山梨県忍野村

- ◆面積 25.05 km²
- ◆人口 9,749人（令和3年【2021年】12月31日現在）
- ◆プロフィール

山梨県東南部の富士山麓の標高およそ940mに位置し、国の天然記念物である忍野八海やハリモミ純林に代表される美しい自然に囲まれており、観光地としても有名です。杉並区とは平成24年8月27日に「災害時相互援助協定」を結びました。

静岡県南伊豆町

- ◆面積 109.94 km²
- ◆人口 7,856人（令和4年【2022年】1月1日現在）

◆プロフィール

静岡県伊豆半島の最南端に位置し、温暖な気候で四季を通して花が咲くまちです。伊勢エビや金目鯛などの海産物や温泉が有名です。杉並区とは、昭和 49 年に区立南伊豆養護学園が町内の湊地区に開設されたことがきっかけで交流が始まり、平成 24 年 9 月 14 日に「災害時相互援助協定」を結びました。

東京都小笠原村

◆面積 106.88 km²

◆人口 2,577 人（令和 3 年【2021 年】12 月 1 日現在）

◆プロフィール

東京から南へ約 1,000km の太平洋上に位置し、亜熱帯海洋性気候に属する温暖な村です。世界でも有数の透明度の高さを誇る海に囲まれ、独自の生態系の動植物を有する自然の宝庫です。杉並区とは平成 25 年 7 月 26 日に「杉並区と小笠原村との子ども自然体験交流事業推進宣言」を取り交わしました。

ウィロビー市（オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州）

◆面積 22.43 km²

◆人口 81,196 人（令和 2 年【2020 年】6 月 30 日現在）

◆プロフィール

シドニーの北部に位置し、シドニー中心から車と列車で約 30 分のところにある住宅都市です。まちの中心部のチャッツウッドには、オフィス街やショッピング街があり、ビジネスマンや周辺都市からの買い物客で賑わいをみせています。杉並区とは平成 2 年 5 月 11 日に「友好都市協定」を結びました。

瑞草区（大韓民国ソウル特別市）

◆面積 47.00 km²

◆人口 425,126 人（令和 3 年【2021 年】1 月 1 日現在）

◆プロフィール

大韓民国の首都ソウル特別市の中心から、車で南へ約 30 分のところに位置し、区の北側には漢江（ハンガン）が流れ、南側には牛眠（ウミョン）山と清溪（チョンゲ）山に囲まれた緑豊かな住宅都市です。牛眠山の麓には、音楽堂をはじめ、オペラハウス、書芸館、美術館などの複合施設「芸術の殿堂」があります。杉並区とは平成 3 年 12 月 9 日に「友好都市協定」を結びました。

台北市（台湾）

◆面積 約 272 km²

◆人口 2,524,393 人（令和 3 年【2021 年】12 月現在）

◆プロフィール

台湾の北西部に位置し、台湾の経済、政治、文化の中心地です。平成 23 年から始まった台北市の中学生との親善野球大会を継続的に実践し、さらに文化・教育等の分野においても幅広い交流を深めていくことを確認するために、平成 25 年 12 月 28 日に台湾政府教育部体育署及び台北市教育局等と「青少年の夢を育む交流事業推進宣言」を取り交わしました。また、日台地域間の文化・芸術の交流を進めるために、平成 27 年 4 月 26 日に、国立台湾戯曲学院と「文化・芸術の相互交流推進宣言」を取り交わしました。

名誉区民

杉並名誉区民は平成14(2002)年に制度が作られ、区の発展や公共の福祉の増進、学術、技芸などに優れた功績があり、区の誇りとして尊敬する方に対して贈られるもので、これまでに13名の方に称号が贈られています。

杉並名誉区民第一号 平成15(2003)年1月7日顕彰

こしば まさとし
小柴 昌俊 物理学者 大正15(1926)年9月19日生



素粒子物理学、宇宙線物理学の博士で東京大学特別荣誉教授。岐阜県神岡鉱山においてカミオカンデ装置を使った実験を行い、昭和62(1987)年2月に世界で初めて16万光年のかなたにある超新星からのニュートリノ(素粒子の1つ)を観測することに成功。これによりニュートリノ天文学という新しい学問の分野を切り開く。

その後、スーパーカミオカンデ実験で、ニュートリノに質量があることを発見。天体物理学とくに宇宙ニュートリノの検出に対する先駆的な研究により平成14(2002)年にノーベル物理学賞を授与される。

令和2(2020)年11月12日逝去(享年94歳)

杉並名誉区民第二号 平成20(2008)年1月7日顕彰

やまびこ せつこ
山彦 節子(本名: 小林 峯子) かとうぶしじょうり 河東節浄瑠璃奏者 大正9(1920)年2月7日生



江戸時代に起源を持ち、江戸風の渋味と温雅さ、格調の高さが特徴とされる、河東節浄瑠璃の技芸総代。幼少のころから長唄、常磐津を学んだのち、河東節浄瑠璃を修業。昭和32(1957)年に名取となる。

舞台はもとより「河東節全集」の収録に携わるなど河東節の伝承と保存に尽力。歌舞伎の演目「助六由縁江戸桜」では、河東節十寸見会御連中といわれる演奏者をまとめあげ、江戸の粋をいまに伝えている。

河東節のわざを高度に体現しているとして、平成6(1994)年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

平成30(2018)年10月30日逝去(享年98歳)

杉並名誉区民第三号 平成20(2008)年1月7日顕彰

こんばる そうえもん
二十二世 金春 惣右衛門(本名: 金春 惣一) 能囃子方 太鼓 大正13(1924)年9月22日生



能楽の器楽的要素を担当する囃子方太鼓金春流の二十二世宗家。父の早逝により18歳で宗家を継承する。

流派の祖は、室町時代にまで遡り、代々宗家は惣右衛門を名乗る。多くの新作能囃子を作調するほか、家元の秘伝とされていた手附を「金春流太鼓全書」として公刊するなど、高い芸術性と革新的な発想で日本古来の伝統芸能である能楽の継承、発展に尽力してきた。

囃子方太鼓のわざを高度に体現しているとして、平成4(1992)年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

平成26(2014)年3月11日逝去(享年89歳)

杉並名誉区民第四号 平成20(2008)年1月7日顕彰

やすぶく たつお
安福 建雄 能囃子方 大鼓 昭和13(1938)年11月14日生



能楽の器乐的要素を担当する囃子方大鼓高安流の宗家預かり。流派中興の祖といわれる父、安福春雄(重要無形文化財保持者)に師事する。

昭和22(1947)年に初舞台を踏んだのち、「道成寺」、「檜垣」、「姨捨」など着実に重要曲をつとめ、あらゆる曲においてそれぞれの内容を的確に把握した、豊かで大きな芸を身につけ、大曲・秘曲の上演に欠かせぬ存在となる。

囃子方大鼓のわざを高度に体現しているとして、平成10(1998)年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

平成29(2017)年7月17日逝去(享年78歳)

杉並名誉区民第五号 平成20(2008)年1月7日顕彰

ささき そのこ
佐々木 苑子 染織作家 昭和14(1939)年7月4日生



20歳代半ばより染織の道を志し、技法・表現上の研究を重ねて、技の錬磨に努め、緯糸と経糸との組み合わせによって絵文様を織り出す絵緋で独自の作風を確立する。

その作品は、植物染料による澄明でやわらかな品格の高い色調と相まって、紬織の技法及び表現の可能性を広げ、芸術的価値を高めたものとして評価されている。

日本伝統工芸展で受賞を重ね、伝統的な紬織の技法を高度に体得したとして平成17(2005)年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

杉並名誉区民第六号 平成20(2008)年4月2日顕彰

いしい ももこ
石井 桃子 児童文学者 明治40(1907)年3月10日生



児童文学の第一人者であり、著書「ノンちゃん雲に乗る」で、第1回芸術選奨文部大臣賞を受賞。作家活動のほかに「クマのプーさん」をはじめ、多くの作品を編集、翻訳によって紹介するなど、日本の児童文学発展の大きな礎を築く。

文藝春秋社、新潮社、岩波書店などで子どもの本の編集に携わり、その後、ロックフェラー財団研究員として児童文学の進んでいたアメリカに留学。帰国後、良質の児童書を数多く提供するとともに、自宅に「かつら文庫」を開設し、家庭文庫普及の先駆けとしても活躍された。

平成20(2008)年4月2日逝去(享年101歳)

杉並名誉区民第七号 平成20(2008)年12月6日顕彰

えんどう みのる
遠藤 実 作曲家 昭和7(1932)年7月6日生



日本を代表する大衆音楽の作曲家。

独学で作曲を勉強し、「星影のワルツ」、「せんせい」、「北国の春」、「雪椿」など多くのヒット曲を生む。

永年にわたる幅の広い作曲活動により、世代を超えて長く愛唱される情感に満ち溢れた名曲を数多く世に送り出すとともに、我が国の歌謡界の発展に著しく貢献し、国民に希望と潤いを与えたとして、平成21(2009)年に国民栄誉賞を贈呈される。

昭和57(1982)年に区制施行50周年を記念して制定された杉並区歌及び杉並音頭の作曲者としても、区になじみが深い。

平成20(2008)年12月6日逝去(享年76歳)

杉並名誉区民第八号 平成22(2010)年1月5日顕彰

はやみ あきら
速水 融

社会経済学史学者 昭和4(1929)年10月22日生



経済学博士、慶應義塾大学、国際日本文化研究センター、麗澤大学各校の名誉教授。

慶應義塾大学で教鞭をとり、日本経済史、近世日本経済史等の専門課程を担当する傍らヨーロッパに留学、歴史人口学を研究し、近世日本の資料(「宗門改帳」を中心とした)に適用し、新しい近世日本の社会経済史像の確立に成功した。

強い牽引力と機動力をもって研究を組織化し、成果を蓄積、学問の普及と発展に努め日本における歴史人口学を確立された功績は高く評価され、平成21(2009)年に文化勲章を授与される。

令和元(2019)年12月4日逝去(享年90歳)

杉並名誉区民第九号 平成24(2012)年10月1日顕彰

よしもと とうじろう のりひさ
四世 山本 東次郎 則壽(本名：山本 東次郎) 能楽狂言方 大蔵流 昭和12(1937)年5月5日生



狂言大蔵流山本東次郎家の四世として、剛直、端正で品格を重んじる芸風を守りつつ、天性の端麗さを加えた円転滑脱な独自の境地を確立する。

幼少より、父、三世山本東次郎則重の手ほどきを受け、昭和17(1942)年に「痿痺」のシテで初舞台を踏み、昭和47(1972)年に、四世山本東次郎を襲名する。

江戸の武家の式楽としての狂言の技法を正しく体得し、その技法を高度に体現しているとして、平成24(2012)年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

杉並名誉区民第十号 平成29(2017)年1月7日顕彰

のむら げんせつ
野村 幻雪(本名：野村 四郎) 能シテ方 観世流 昭和11(1936)年11月27日生



狂言方と泉流六世野村万蔵の四男として生まれ、幼少期は父に師事する。

15歳でシテ方二五世観世宗家観世元正に入門、19歳で初舞台「俊成忠度」を踏み、着実に芸歴を重ね、端正優美とされる観世流を代表する能楽師の一人として卓越した技量を示す。近年においても現行演出の見直しや、他分野の芸術家と協力して新作を世に出すなど、意欲的な活動を継続している。

伝統的な能シテ方の技法を高度に体現し、能楽の発展及び後進の指導・育成にも尽力してきたとして、平成28(2016)年に、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

令和3年(2021)年に永年の功績により、観世流において命名される「雪」を用いた雪号を授与され、野村幻雪と雅号を成す。

令和3(2021)年8月21日逝去(享年84歳)

杉並名誉区民第十一号 平成30(2018)年1月6日顕彰

しば すけやす
芝 祐靖 雅楽演奏家 昭和10(1935)年8月13日生



南都(奈良)系の楽人の家に生まれ、宮内庁楽師として宮中儀式などの演奏に携わるだけでなく、新たな作曲も手がけた。

宮内庁を退職後は、雅楽演奏グループ「伶楽舎」を結成し音楽監督として、古典雅楽のほか現代雅楽、現代邦楽などの作曲・演奏、海外での音楽祭への参加や演奏ツアーを重ね、雅楽を通して日本の音楽文化を海外に発信した。

雅楽の演奏家として優れた演奏活動を展開することとどまらず、新たな創作や雅楽廃絶曲の復興にも意欲的に取り組んで多くの成果を挙げ、現代に生きる芸術としての雅楽の可能性を世に示すとともに、後進の育成にも尽力してきた功績が高く評価され、平成29(2017)年に文化勲章を授与される。

令和元(2019)年7月5日逝去(享年83歳)

杉並名誉区民第十二号 令和3(2021)年1月4日顕彰

こんどう じゅん
近藤 淳 物理学者 昭和5(1930)年2月6日生



物性物理学の分野において長年解明されていなかった、極低温領域での微量の磁性分子を含む金や銅などの電気抵抗の異変について、その原因を理論的に解明し、この現象は「近藤効果」と呼ばれている。

「近藤効果」の理論は、さまざまな物理現象に関わることが判明し、金属内多電子系についての根本問題の提起として世界的に知られ、金属理論の発展に多大な影響を与えた。さらには、量子ドットやスピントロニクスなどのデバイス分野でもその重要性が認識されている。このような功績が高く評価され令和2(2020)年に文化勲章を授与される。

令和4(2022)年3月11日逝去(享年92歳)

杉並名誉区民第十三号 令和3(2021)年1月4日顕彰

くぼた じゅん
久保田 淳 日本文学者 昭和8(1933)年6月13日生



古典全般にわたる深く広い教養に裏付けられた斬新で信頼できる作品分析を特徴とする顕著な研究業績により、日本文学の発展に多大な貢献をした。

「新日本古典文学大系」全百巻など多くの重要な作品、辞典の出版に参画し、日本文学研究全体の高度化と普及に寄与した。とりわけ、独力で企画・監修している「和歌文学大系」は和歌文学研究の金字塔と評価されている。

執筆活動にも積極的に取り組み、魅力的な作品を刊行するなど、日本文学の発展に大きく貢献した功績が評価され、令和2(2020)年に文化勲章を授与される。

自治基本条例

自治基本条例とは？



「杉並区自治基本条例」は、区内に住み、働き、学ぶすべての人々が、地域のことを自ら考え、行動し、豊かで活力ある住みよいまち杉並を、共に力を合わせて創っていくための大切な仕組みとして、平成15年5月に施行されました。

「杉並区自治基本条例」は、杉並区の自治の基本理念、区民や事業者の皆さんの権利・義務、区政運営の基本原則、区政への参画と協働の仕組みなどをわかりやすく示した、区の自治運営に関するルールです。

また、区政の基本事項を定める“最高規範”であり、他の条例を制定する際の指針となるものです。

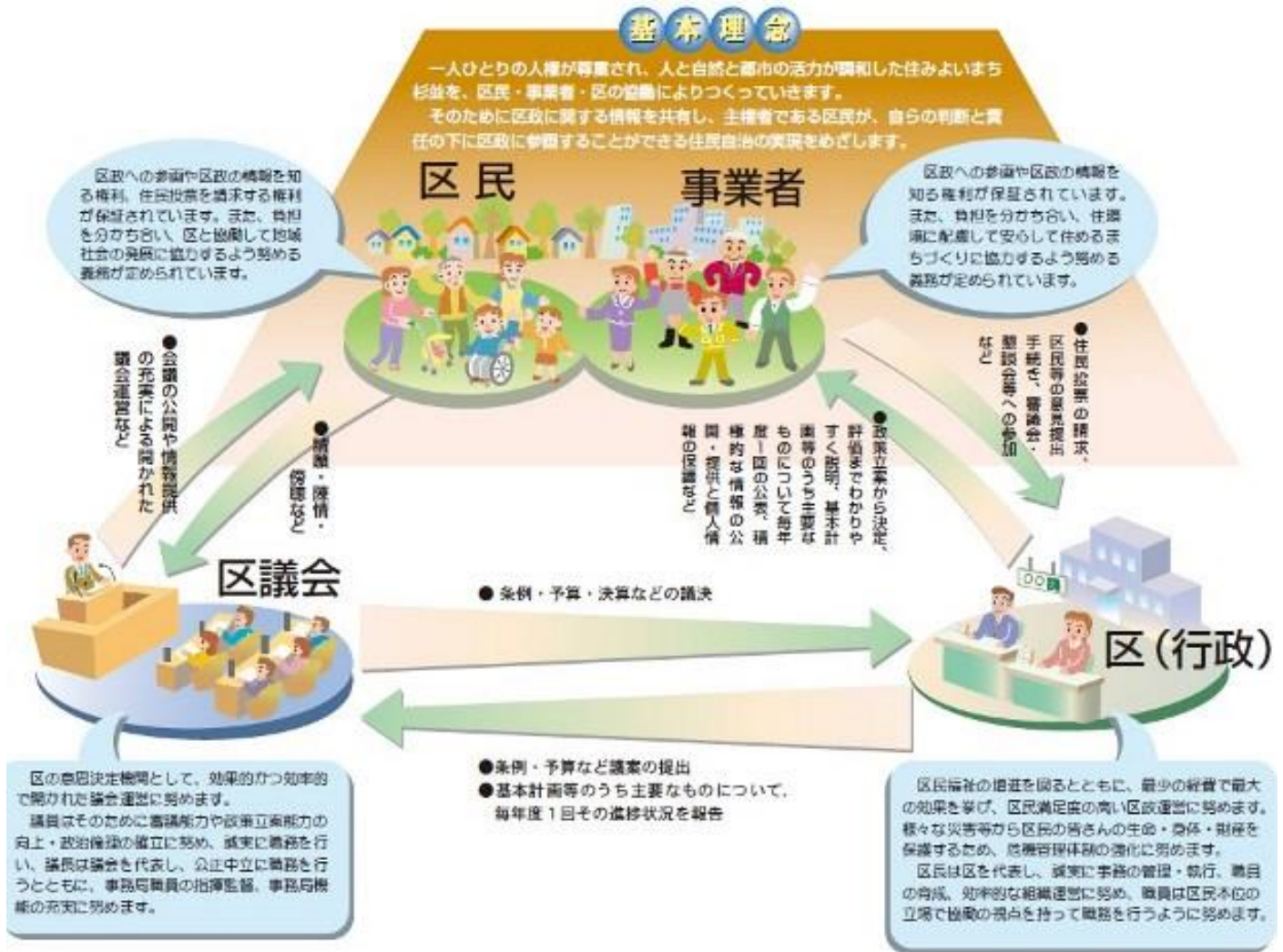
制定の背景と目的は？



平成12年の地方分権改革により、国と地方は対等の関係となり、区の役割と責任が増大しました。

また、NPOやボランティア活動の活発化など、身近な地域への関心や区民の皆さんの区政への参画と協働を求める気運が高まりつつありました。こうした背景から、杉並らしい自治の確立に向けて、自立した地方政府としての枠組みや区民の参画と協働の仕組みを条例でわかりやすく定めることとしたものです。

自治基本条例のあらまし



審議会や懇談会等への参加

区が設置する附属機関や懇談会などに、区民が参加し、より意見を反映できるようにしていきます。

住民投票制度

区政の重要事項について、広く区民の皆さんの意見を直接聴く必要があるときに、区議会の議決を経て実施することができます。住民投票は、18歳以上の区民(永住外国人を含む)の1/50以上の署名で請求できます。

区民等の意見提出手続き(パブリックコメント)

重要な政策や計画をつくる際、「杉並区区民等の意見提出手続きに関する条例」に基づき、事前に案を公表し、区民の皆さんの意見を伺い、それらを政策等に生かしていきます。また、いただいた意見に対する区の方考え方を公表します。

杉並区基本構想

区では、令和3（2021）年10月、区議会の議決を経て、令和4（2022）年度を始期とする、今後の概ね10年程度を展望する新たな基本構想を策定しました。



基本構想は？

基本構想は、杉並区の将来の姿と、進むべき方向性を描くものであり、区の近未来に向けた道筋を指し示す「羅針盤」とも言えるものです。また、区が、区政を担う責任主体として行政運営を行う際の、すべてのもととなる考え方でもあります。

杉並区が目指すまちの姿

みどり豊かな 住まいのみやこ

※ 「みやこ」には、首都のある都市という意味だけでなく、「人が集まり楽しく暮らせる土地」という意味もあります。

みどり豊かなこのまちを次世代につなぐとともに、杉並の特徴である「住宅都市」のイメージをさらに発展させ、杉並で暮らすすべての人々にとって、安全・安心や、にぎわい、快適さ、さらには人々の息づかいが感じられるような、ぬくもりと安らぎのあるまちを築くといった願いを込めて、区が目指すまちの姿を定めました。

* 「基本構想」の全文は、区HP「区政情報」>「新基本構想（令和4年度～）」>「杉並区基本構想」（<https://www.city.suginami.tokyo.jp/kusei/vision/shinkihonkoso/1069647.html>）からご覧いただけます。

基本構想を貫く3つの基本的理念

認め合い 支え合う

様々な価値観を互いに認め合い、支え—支えられる地域社会をつくっていくことにより、地域で暮らす人たちが、誰一人として差別されず、取り残されない社会にしていきます。「人生100年時代」を見据え、すべての区民が自らの人生を豊かに生きていくことができる社会を築いていきます。

安全・安心のまち つながりで築く

首都直下地震や、気候変動に伴う大規模な自然災害に対応し、誰もが安全・安心に暮らし続けることができる環境を築くために、まちのつながり、人のつながりを大切にします。区民、団体、企業、行政を含むこのまちに関わるすべてが主体となり、力を合わせて、まちの将来を築いていきます。

次世代を育み 引き継ぐ

杉並の次代を担う子どもを地域社会全体で育てていきます。暮らしの基盤である、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくため、地球規模の視野に立って一人ひとりが行動します。わがまちの歴史を知り、まちに根付く文化や遺産、自治の歴史を継承し、このまちに誇りを感じながら暮らす人々を増やします。

分野ごとの将来像と取組の方向性

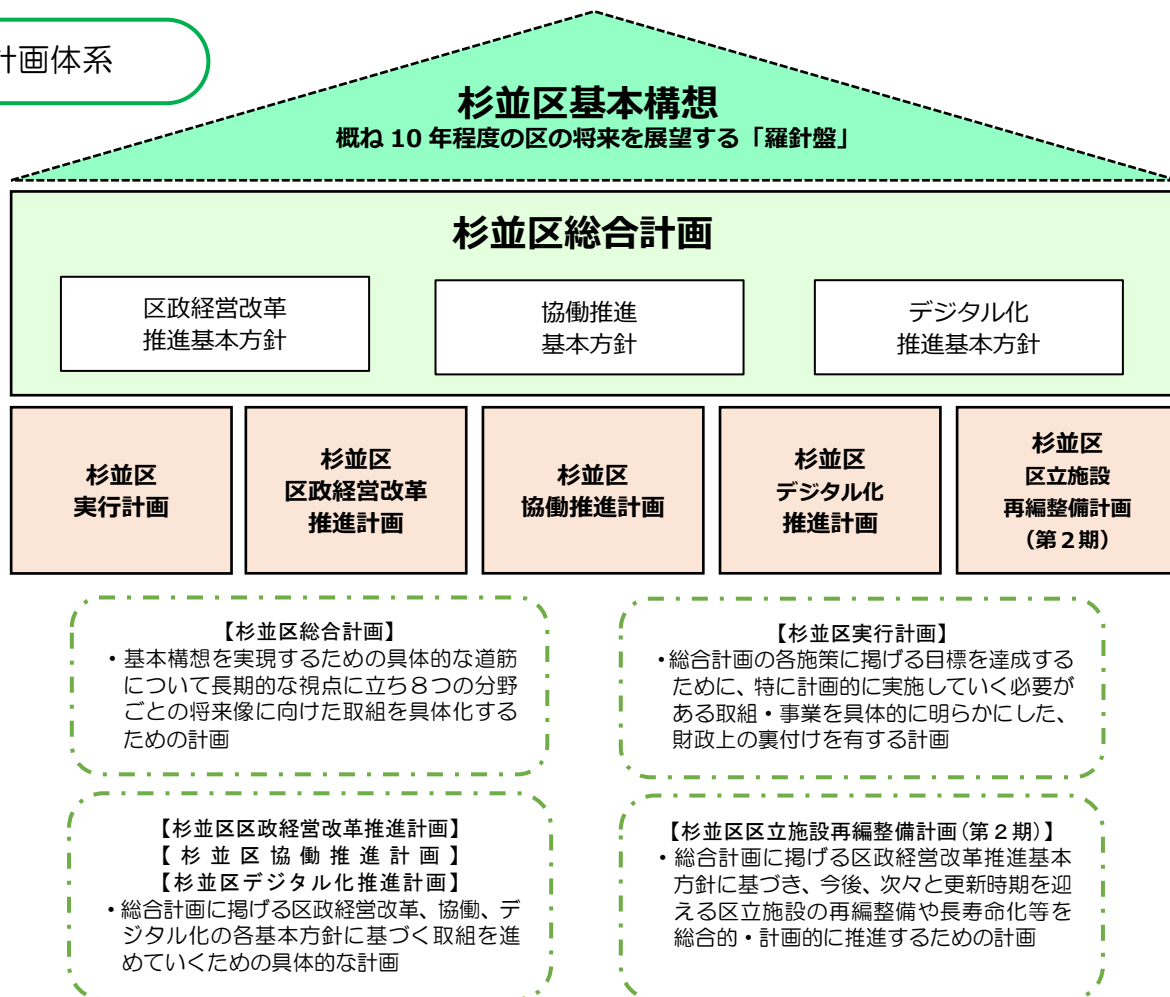
— 分野ごとの将来像を以下のとおり描き、その実現に向けて、取り組んでいきます。 —

分 野	将 来 像
防 災 ・ 防 犯	みんなで作る、災害に強く、犯罪を生まないまち
まちづくり・地域産業	多様な魅力と交流が生まれ、にぎわいのある快適なまち
環 境 ・ み どり	気候危機に立ち向かい、みどりあふれる良好な環境を将来につなぐまち
健 康 ・ 医 療	「人生100年時代」を自分らしく健やかに生きることができるまち
福 祉 ・ 地 域 共 生	すべての人が認め合い、支え・支えられながら共生するまち
子 ども	すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち
学 び	共に認め合い、みんなで作る学びのまち
文 化 ・ ス ポ ー ツ	文化を育み継承し、スポーツに親しむことのできるまち

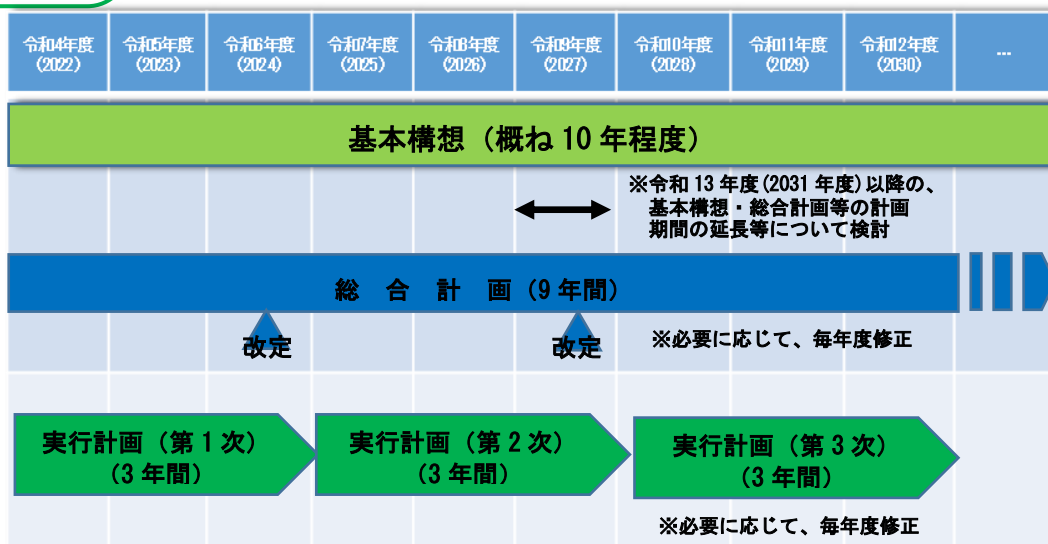
杉並区総合計画等

基本構想を実現するための具体的な道筋となる「杉並区総合計画」・「杉並区実行計画」・「杉並区区政経営計画推進計画」・「杉並区協働推進計画」・「杉並区デジタル化推進計画」・「杉並区区立施設再編整備計画（第2期）」を策定し、時代や環境の変化に対応した区政を推進していきます。

計画体系



計画期間



杉並区歌

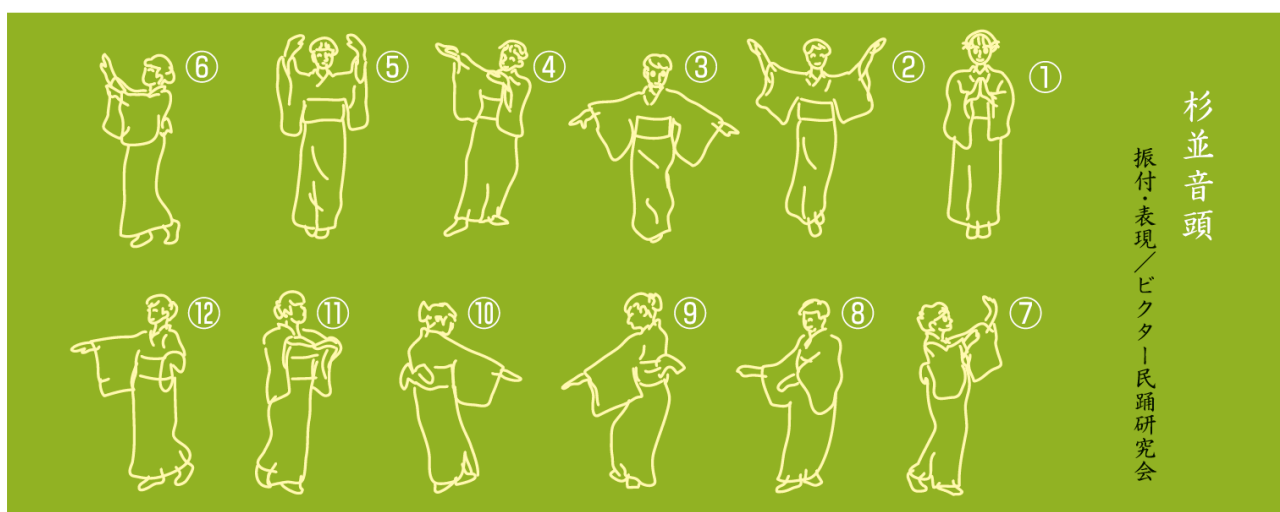
作 詞／佐藤 有弘
補作詞／加藤 省吾
作 曲／遠藤 実
編 曲／只野 通泰

- 1 杉の木立に ひめつばき
光りかがやく 文化のまちよ
心ふれあう 人がいる
笑顔を見かわす 人がいる
手を取りあって 和を広げ
共に栄える 杉並区
- 2 めぐみゆたかに 水清く
夢を浮かべて 流れる川よ
心あかるい 人がいる
幸せ育てる 人がいる
みどりのまちに 愛の花
薫るわがまち 杉並区
- 3 遠い歴史を いしずえに
明日にはばたく 若さと力
心やさしい 人がいる
喜びわけあう 人がいる
希望の歌を 肩組んで
共にうたおう 杉並区

杉並音頭

作 詞／竹下 彦一
補作詞／加藤 省吾
作 曲／遠藤 実
編 曲／只野 通泰

- 1 杉の杉並（ヨイシヨ）西江戸育ち
昔しや武蔵野 夢の森（ソレ）
みどり豊に すくすくと
福祉と文化の まちづくり（サテ）
※ { ハア 花の杉並 三十六町
まっすぐのびます まっすぐのびます
ドンとドドントネ～
- 2 今も変わらぬ（ヨイシヨ）その街道は
青梅 甲州 五日市（ソレ）
川は神田よ 妙正寺
流れもつきない 善福寺（サテ）
※くりかえし
- 3 寄せる人波（ヨイシヨ）五十と余万
富士もほほえむ 日本晴れ（ソレ）
どこも住み良い 街並みは
明るい笑顔で この栄え（サテ）
※くりかえし
- 4 親子そろえば（ヨイシヨ）心が和み
添える手拍子 足拍子（ソレ）
心ひとつに とけあえば
山茶花匂って 紅白に（サテ）
※くりかえし



杉並区勢概要 2021（令和3年版）

令和4年6月発行

編集・発行 杉並区総務部広報課

東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号

電 話 03-3312-2111（代）

FAX 03-3312-9911

ホームページアドレス <https://www.city.suginami.tokyo.jp/>